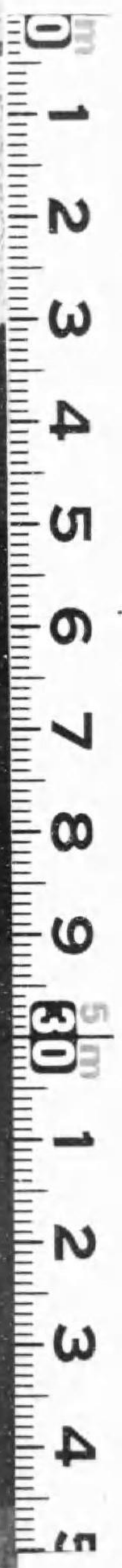
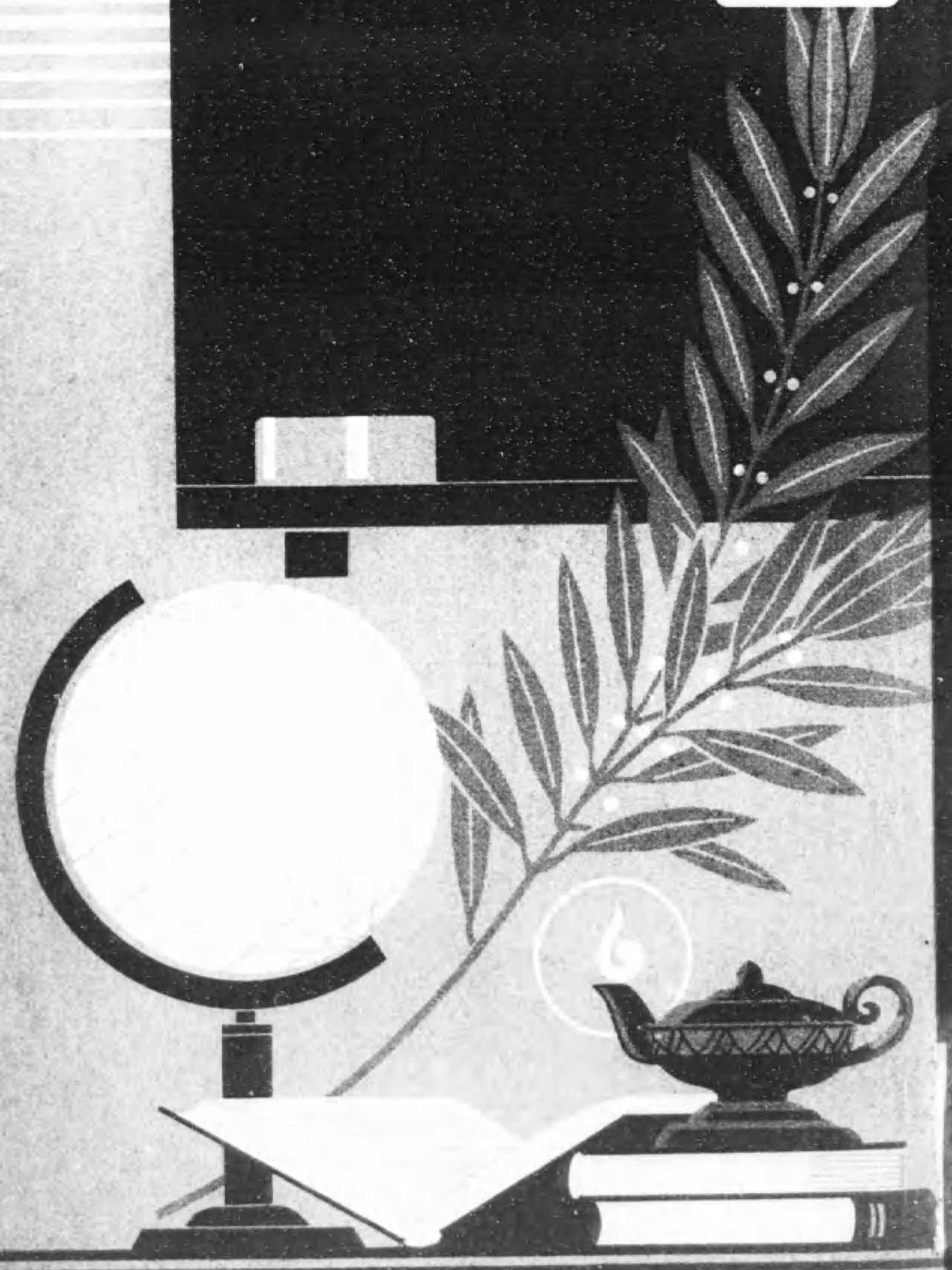


道近るなに員店女ト

特220 7

202

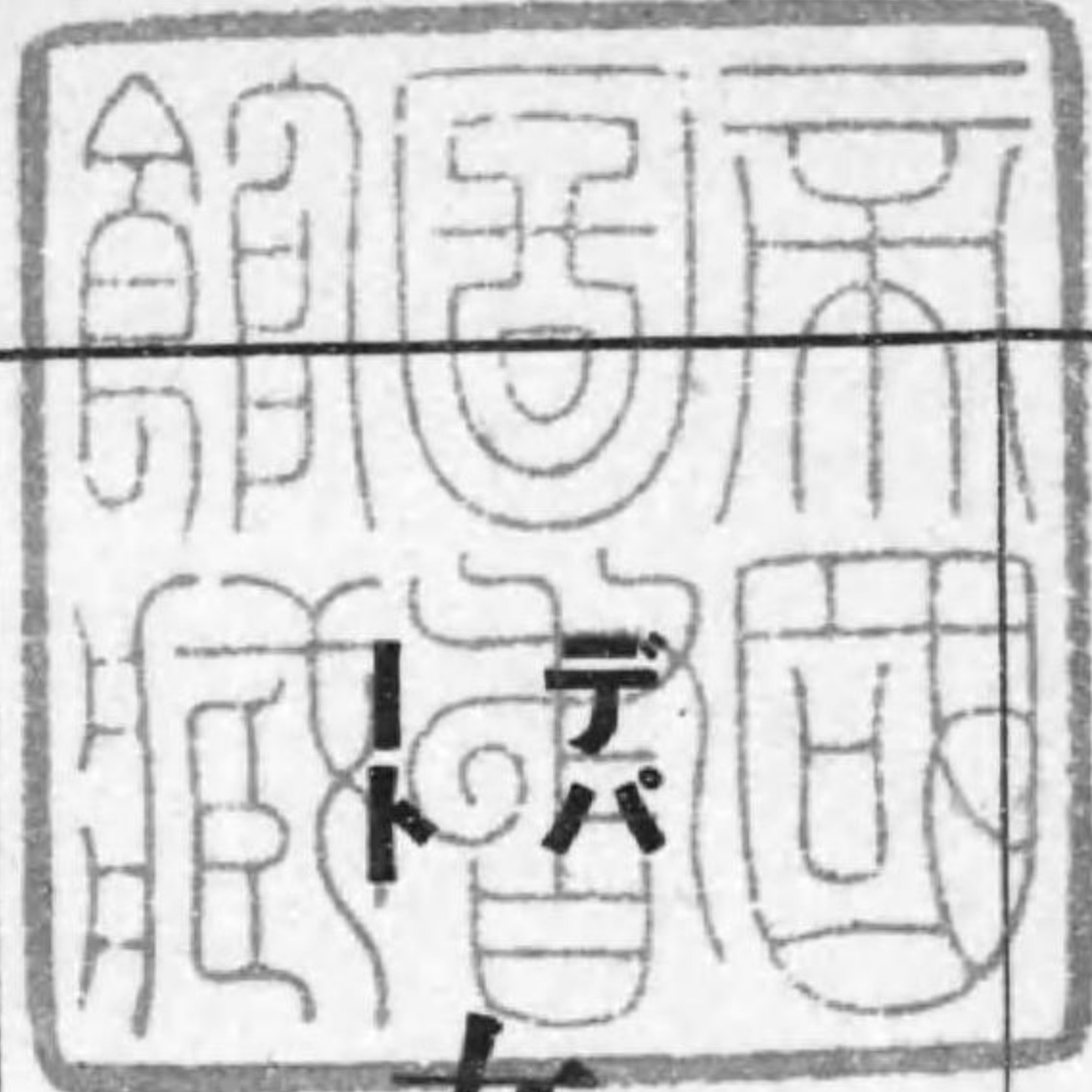
8



始



特220
202



職業指導叢書

女店員なる近道

第二八編

東京良國民社發行



序

大海に船出するには羅針盤が必要である。これと同様に、數ある職業の中から吾々の一生を托する職業を選ぶには又職業選擇の羅針盤が必要である。職業指導書は、これから、人生々活の第一歩を踏み出さうとする人達の爲に、陸軍々人、海軍々人、小學校教員、醫師、看護婦、産婆、美容師等々と、出来る限りの職業を網羅して、此等各職業の性質を説明し、かくくゝの職業に就くには、かくくゝの道順を通らねばならぬ、かくかくの業務を習得するには、かくくゝの手續きを踏まねばならぬと云ふことを叙述したものである。

人には各天分があつて何人も自己の天分に適應した職業を選ばなければ

ばならぬ。自己の天分に適應した職業を選ぶと云ふことは、單に自己の幸福の爲だけでなく、國家社會に對しても當然なさねばならぬことである。なんとすれば、國家社會は各人が各其の天分に應じて出来るだけ奉仕するところに其の發展が期せられるからである。

本叢書はそれ〴〵其の道の専門家に依頼して、執筆してもらつたものであるが、紙數に制限あり、一方公刊をいそいだ爲に、或は多少の缺陷があるかもしれない。然しこれは他日の補正を期することにして、兎にも角にも本書の上梓が職業選擇の上に何等かの参考になるならば幸である。

編者識す

昭和十年六月

目次

第一章 職業婦人としてデパートに働かんとする人に 一

第二章 デパート女店員の地位 四

第三章 婦人の天職 一〇

第四章 デパート女店員になるには 一四

 第一節 就職に必要な書類に就いて 一四

 第二節 個人的に就職依頼をする時の注意 一九

 第三節 採用試験に臨む場合 二九

 第四節 就職に必要な健康に就いて 三六

第五章 各デパートの内規と採用方法 三九

 第一節 各デパートの希望する條件 三九

 第二節 一般の採用方法 四八

第三節 職業紹介所の利用に就いて……………五

第四節 デパートに求職する婦人の環境……………五

第六章 デパート女店員……………三

第一節 デパート女店員とは……………三

第二節 デパート女店員の實相……………七

第三節 食堂給仕の實相……………八

第四節 エレベーターガールの實相……………一〇

第七章 家庭生活と職業との調和……………一五

デパート女店員になるには

第一章 職業婦人として

デパートに働かうとする人に

今日の婦人は従らに家庭だけに黙してゐることは出来なくなつて來た。それは婦人の自覺にもよることではあるが、それよりも最も大きな原因は社會の環境といふものが、婦人も共に街頭へ出て働かねばならぬといふ一大警鐘と亂打したからである。今や新時代の有力なる特徴は、男子の領域内に若き女性が漸次侵入して行くことによつて従來兩性間に植付けられた社會的不平等の病根を一掃しようとしてゐる。そしてそれは結果にして良いことか、悪いことか知れないとしても、今日の婦人は、今迄の女

大學式の教育や約束には堪へられなくなつて來た。職業的にも獨立して男子と平等に仕事をし度いといふ信念に燃えてゐる。この結果が、今日の婦人職業時代となつて現はれて來たのである。一面の見方としては、物凄く現代の就職難から婦人の職業が出現したと言つてもよからう。けれどもこの職業的に婦人の進出して行くと云ふことは、どうしても避け得られない。人々も年々に激増し、文化も進み、社會の組織も漸次複雑化して來ると共に、世間は益々世智辛くなつて來る。

かゝる世想にあつて、婦人が何かその手に確かなる職業を持つてゐると云ふことは、確かに、婦人に力強い地位を與へると共に一般婦人の向上を齎すものである。と云つた處で婦人には婦人として適當な職業がある。職業婦人となれば心強いからと云つて如何なる職業にもかまはずなれるといふ譯にはゆかぬ。婦人が職を撰ぶに當つては、まづ自分の能力と程度それから健康に注意しなくてはならぬ。今日の若い女性は社會の誘惑といふやうなことには相當の心構えが出來てるかも知れないが、自分の天資、天分を知ることがは、どうも間違ひがあるやうである。この點を充分に考慮した後

自分に適した職業を撰ぶべきであつて、學歷があるからと云つて、なんでもかでも高級な職業でなければならぬとか、學歷がないから高級な仕事には駄目だとか左様な偏見を一先づ捨て、自分の職業としては、果してどんな職業が一番適してゐるかといふことを靜かに考へ、又は知人、先生等にもよく相談して見る必要があるであらう。社會は今や、擧げて職業婦人を歓迎してゐるのであるから、全部の女性がデパートの女店員にはなれないからと云つて心配する必要は少しもない。他に澤山の職業が、その人の個性とあらゆるよりよい條件とを具備して待つてゐるであらう。然し如何にして、もデパートの女店員にならうとする確い決心をもつたなら、またそこに活路も見出されることであらう。

第二章 デパート女店員の地位

職業婦人といふのは、何か一定の職業を有してゐる婦人である。

職業を有してゐるといふ以上は、先づ報酬を得ることを目的とするものである。好意や御禮心で働くのとは違ふ。その爲めに一定の勞務を提供し、一定の契約關係に立つのである。それが職業として働くといふことの常態である。

そうして、また職業といふ以上は、臨時的であつたり、あれやこれやといふのでは無くして、大體一定した仕事をなすものである。

また職業といふものは、社會的な意味を持つてゐる。その働きが社會の人にそれと認められるものである。その人はその仕事を自分の一生の事業として、又は生活の根據として全精力を注ぐのであつて、道樂にやるのでは職業といへない。また私事的にまた一時的に働くことは、普通に職業とは言はなす。

尤も社會的といつても、その仕事の直接の目的が何も社會の爲めといふのではない。直接の目的は報酬を得るにあるのである。社會の進歩や改善を直接の目的とするものは、社會事業家か社會運動である。けれども、その仕事の性質が或る社會的に効果を持ち、社會に一定の働きをなすものであると認められるものといふ意味である。

更に職業婦人といへば、普通自分の家庭を出て外に働くものである。勿論自家に在つて働く職業婦人もあることはある。この家庭を離れて働くといふ所に實は大層深い意味があり、これは職業婦人の發生については、大いに關係がある點である。また實際に職業婦人の多くは、家庭を離れて働いてゐるのである。

かくの如くにして、職業婦人とは一定の社會的職業を有する婦人を云ふのであり、更に詳しく云へば、報酬を得る爲めに、自家を離れて、一定の雇傭關係の下に、勞務を提供する婦人をいふ、ともいへよう。

更にデパート女店員と、男子が職業を持つてゐるのと比較して、デパート女店員の特長を述べよう。

一定の職業を持ち、家庭を離れて、他人に雇はれて働く場合にその外見が甚だ男子と相似てゐて、婦人たることの外には何等の差異が認められなく見えても、婦人はやはり家庭の人であると思はれる。第一義的には家庭の人である。勿論、婦人も出で、社会的職業につくことはある。けれども職業に生き、職業に死するといふ點に於ては、まづ男子に譲るべきであらう。すなはち、男子は社會に働くといふことが第一義であり、家庭といふものは第二義である。

また家計について考へてみるに、男子の収入獲得の目的は大體に於て家計全體の補填にある。けれども婦人の場合は例外を除いては、まづ家計の補助である。

この意味に於て女店員の職業に對する態度が自ら異つて來る。また社會もこの點を意識して、その待遇に於て、差異をつけるのである。更に女店員の就職の目的を實際に調べてみるとやはり家計の補助である。勤務状態についても、婦人は家庭的、身體的に障礙が比較的多く、その結果は能率にも影響を來たすといふことが認められ、勤務年限は短く、異動はげしく、不熟練である等々の理由からして、その結果は給料や

總収入に於て低く、昇進も遅く、地位が恵まれないといふことになる。

まづ現代の社會は、大體に於て男性中心の社會である。男性には働き良いやうに出來てゐる社會である。そこで、この中に出て立ち働かねばならぬ婦人の立場が、可成りに困難であらうといふことは想像するに難くない。なほ婦人自身としても、家庭的、身體的な障害が多く、その爲めに諸種の特別な待遇を要求し、従つてその収入や昇進又は地位等に於いて、普通男子に比して劣つてゐるのである。この様にして、雇主側からも、婦人は細心にして注意深く、また眞面目で熱心であり、また賃銀も比較的廉くて濟む等々の有利なる點を有ち乍らも、勤続年限短く、獨創力と統制力とが欠如してゐる短所を有つてゐるといふことである。

これ等の婦人にとつて不利なる點も、考へ様によつては利益にもなる。といふのは婦人はかく不熟練でも廉く雇ひ得るといふことが、彼女等に職を與へることにもなるからである。

たゞ、かうした以外にも、婦人は男性社會に於て働くのであるからして、その意味

に於ても、婦人が職業に就くといふことは既に一つの競争なのである。

婦人の収入は現在のところ男子に比して大體に少い。例外は随分多くある。けれども東京市の調査の結果から見ても、一人平均月額給料は三十圓内外である。彼女等の就職の希望に於ても初めから「家計の補助」である。

ところが更に考へてみるに「家計の補助」とはいふけれども、實際は、何も自己の諸経費を差し引いた残りを家計に補助するといふのではなく、彼女等の多くは自家に在つて、その居住費も食費もキツちり拂ふといふものは極く少い。この意味では、彼女等の働きの収入といふものは、單に家計のマイナスの量を幾分でも少くするといふ意味に解さるべきである。

といふのは彼女等の収入を見るに、却つて「家庭よりの扶助」といふのがある。一見甚だ矛盾してゐる様だが、それが如實にその間の事情を物語つてゐる。すなはち、彼女等の働きは決して、經濟的獨立を可ならしむる程の収入を得るのではないことは勿論のこと、更に家庭に對しては、單に自己掛りの經費の幾分かを補填するといふ意

味なのである。

かくて、デパート女店員の現状にあつては、これを家計方面から觀察すれば、婦人は未だその多くが家計に僅かの補助を行ふといふ以上に出ず、彼女等は未だ依然として家庭の人であるといふことが分る。

それ故に、現下のデパート女店員の思想的傾向は、大體に於いて、極めて地味なものである。それら多くの女店員の中を流れる傾向は、まづ家庭中心な、而も極めて保守的なものである。すなはち、女店員達が職業婦人として働きに出るといふのも、殆んど總べてが「家計補助の爲め」であるといふことは、先きにも繰り返して述べた通りである。實際に家計困難の故である。經濟的不況の爲めに家庭の爲めに幾分でも負擔を輕からしめようといふのである。デパート女店員の仕事といふものは、單に働くといふ趣味のためや、また社會になれるといふ様なやさしいものでなく、生活を基とした眞剣な仕事なのである。

彼女は要するに「家の爲めに」「何か働き度い！」といふのである。これが現下の

デパート女店員の中を流れる思想であり従つてまた色々な問題もそれを中心に考へらるべきである。

第三章 婦人の天職

かくの如くに婦人は家庭を離れて街頭で働くのが本務でなくて、やはりそこに一つの男子とは異つた所があると思はれる。即ち婦人は、家庭中心であり、民族の創造者でなくてはならぬ。経済的に困却すれば、婦人であらうと男子と同様に職に就かねばならぬ。しかし婦人の天職は第二の國民の養生にある事を忘れてはならぬ。次に掲げたデパート女店員の心からの言葉を聞かれない。

來し方行末を顧みて

白木屋 水城 春壽

いくたびか靜かに考へました揚句、これが自分の行くべき道と信じまして、東京

驛から初めて店（白木屋）へ通ふ歩道を歩きました當時は、自分の存在が不思議な氣持でながめられました。

それはつい此の頃のやうに思はれますけれど、もう二年にならうとしてゐます。はじめに社會へ出ましたやうな私には、總ての事が皆新しく教へられる事ばかりで御座いました。

たゞ漫然と過して居りましたやうな私が本氣で自分の姿を見ることが出來、周圍の人達との交渉も自分には貴い經驗となりまして、眞面目に人生を見つめながら一足づゝでも進む事の出來ますやう心から御祈り致しました。現在では總て自分にあたへられました使命と思ひまして自分の小さき力を信頼し、勇氣と努力とを以つて、感じつゝ一日一日と働いてゐます。

朝は子供達と前後して家を出ますが、子供達が學校から歸つてまゐります時、母の居らぬといふことはどんなに物足らぬ思ひをすることだらうと氣の毒に思ふ事が御座いますけれど、それが爲めに、まさか踏み迷ふやうなことはありませんまいと子

供の心を信じて居りますが、どうか三人の子供達が、なごやかな気もちで正しく生きて行けますやう、それがたゞ一つの願ひで御座いました。

女店員生活讚美

三越 大島 ハナ

母と私と二人の妹を残して父は死亡しました爲め私の肩に一家の經濟を背負はねばならぬ破目になつたので、大正六年に初めて三越の本店で働かせて頂くことになりました。それからといふものは母の鞭撻に依り姿態構はず世間の蔑みも外に、一意勤めを大切に努力致しました。そして次の妹を女學校に入れて卒業させ、今は、やはり三越で働いて居ります。三番目の妹は體質が少し弱かつた爲め高等小學校の一年を終了後東京工科學校の製圖科を卒へて、今は家事の手傳ひをしてゐます。私の信仰と云つても只淋しい時は救世軍の説教を聞いて心の慰安を求めたり、お稻荷様を信心する位のことです。尙結婚と云ふことですが多くの方は家庭の事情で婚期が遅れるやうですが、中には私共の様に男の方と一緒に働いて居りますと、其の間に

種々の男性の缺點を見せつけられる結果、考へられますので自然と婚期を失ふ方もある様です。私は五年前夫を有ちまして今では二人の小供の母ですから、何ですか近頃では此の二人の子供に財産を残してやりたいといふ様な考へが出てまゐりました。兎に角、世の中と云ふものは心の持ち方一つでそんなに憂くも、幸ひなものとも考へられません。常に正しく強く明るい氣持で生きて行けば、神様は自然恵みの御手を私共の上にお授下れると思ひます。

殊に婦人の地位が社會的に認められて參りました今日では假令どんな運命の籤を引き當てましても決して悲觀したり自暴自棄になつたりする必要はないと信じます。

第四章 デパート女店員になるには

第一節 就職に必要な書類に就いて

採用申込に對して、必ず具備して提出せねばならぬ資料は(一)履歴書(二)學業成績(三)健康證明書(四)戸籍謄本(又は戸籍抄本)(五)寫真であるが次に委しく之を説明して置きます。

(一) 履歴書

是れは採否を決する最初の資料で、謂はゞ結婚見合ひの如きものである。故に何處にしても本人の自筆と定つて居り、其の第一印象は文字の巧拙、第二は記載の體裁の整否、第三は注意の不完である。曾つて或る銀行の副頭取某氏の談に、低い地位の事務員が二三人要るので、新聞に僅か一日廣告を出した所が、忽ち集つて來た應募者

が三百何十人あつて、到底一々面會することが出來ぬから、先づ履歴書を展げて見て、書態の拙惡なもの、體裁の整はぬもの、認め方の不謹慎なものなど、片端から二百五十通ほど取除けて、然る後に選り残された者に就て面會して、始めて三人採用したことがあると。此の事はこの銀行のみでない。志望者の多いときは先づ履歴書で篩ひ落されることは屢々ある。

履歴書

本籍地 静岡縣濱名郡長上村小池三一四五番地

現住所 東京市江戸川區平井貳丁目八七星野方

戸主平民房太郎ノ次女

平野哲子

大正五年十月十五日生

學歴

一、大正十二年四月 本籍地何々小學校入學

第四章 デパート女店員になるには

一、昭和四年三月 同校尋常科卒業

一、同年四月 東京府立第一高等女學校入學

一、昭和八年三月 同校卒業

職 業

一、無シ

賞 罰

一、無シ

一、高等女學校四年間無缺席ノ爲メ賞状ヲ受ク

右之通り正ニ相違無之候也

昭和八年八月三日

右

平野 哲子 圖

故に、字體は出来る丈美しく、體裁は先づ縦に二つに折つて、文字の折り目にかゝらぬ様にし、上下と左右の紙端を適當に明け、行間正しく、亂雜に流れず、總て慎んで書く様にあり度い。

(二) 學 業 成 績

是れは過去幾年間、入學より卒業まで、各學年の成績又は最後の學年の成績で、學校に於て作られたもの故、本人の手では如何ともし難い。卒業前に提出する場合に、前學年だけか又は卒業期の一學期二學期の成績である。兎角入學後の二三年は、誰も就職を念頭に置かず、不勉強となり易いが、其の不勉強時代の試験成績が採否を決する標準となるのであるから、入學の當初から成績には最も注意を要する。

(三) 健 康 證 明

是れは責任ある醫師が體格を診察して、證明せる書類だが、何れのデパートにて、健康には最も重きを置き、苟くも健康に故障あるものは殆んど何所でも採用の望みが無い。されば醫師の證明が十分でなければ採用されないのみならず、愈々採用し

ようとする際には更に健康診断を行ひ、折格他の條件が合格であつても、健康不十分の爲めに採用に漏れることも屢々ある。斯く健康に重きを置かるゝ故、平素よりかゝる業務にたへ得るだけの體力を鍛へて置くべきである。

(四) 戸籍抄本

昔は之れを必要とはしなかつたのが、近時大抵之れを必要とする様になつた。是れは本人の正確なる身分を知るに必要なのみならず、家庭の事情がまた採否の一條件となるからである。餘り極端な悪い家庭に育つたものでは、過去の經驗から見ても、或は性格が偏してゐたり、或は素行上の間違ひを起したり、兎角、成績が思はしくない爲めに、近來は此點を割合に重要視するやうになつた。

(五) 寫眞

是れは臺紙無しの手札型で、他の書類と同封して郵送するに差支無きを望むのであるが、何故に寫眞を必要とするかと云ふに、容貌に註文があるのだ。容貌を最も問題とするのは、デパートで、多數の顧客を相手にするのだから、人に嫌はれるやうな容

貌では、却つて客を驅逐する傾向がある故、先づ寫眞で見て餘りに不愉快な容貌なれば面會するまでもなく斷はられるのである。此の事は何れのデパートでも聞くのであるが、大坂の高島屋本店常務細原和一良氏の談によれば成程人に嫌はれる様な容貌でも困るが、さりとて餘りの美人でも心配である相だ。といふのは女店員ばかりでなく、男店員も相當その間に立ち交りて働くのであるから、間違ひが内部から起る様でも困るといふ。寫眞が必要とせらるる様になつたのは、此等の理由に基くだらうと思はれる。されば寫眞を撮る際にも、餘り亂れた髪や他人に好感を與へない様な姿で撮ることとは損である。

第二節 個人的に就職依頼をする場合の注意

一、自宅訪問の際に於ける心得

人を訪問するに際して、先方が多忙で眼を廻してゐる處へ、強いて面會を求めて長話しをしてゐるのは、却つてよくない。さういふ場合は、先づ以て先方の都合を聞き

合せてから面會を求むべきである。それでなければ、名刺を出して、取次のものに要件の概要を話すと、若しくは名刺の脇に簡単に要件を記し、又改めてお伺ひしますからよろしくと云ひ置いて歸つた方が、却つて先方に好感を與へ、同時に記憶を呼び起させることともなるので効力が多いやうにも思はれる。

二、求職者に必要な熱誠

又人を訪問するに就いて、熱誠といふことを忘れてはならない。熱心であると同時に誠意を以つて臨まねばならない。人を感動させるものは熱誠である。如何に巧妙な辯説を用ひ、如何に禮節に叶ふ態度を以て人に對しても、その衷心から誠實を披瀝しなければ、到底相手を感動させることは不可能である。即ち、ある人は學校の成績は少し悪いやうであるが熱誠であるから使つて見ようと言ふやうな場合が往々にしてあるものである。殊に今日のやうに就職難の深刻な時代にあつては、一通りや二通りの熱誠では駄目である。心からの熱誠を披瀝して眞實に相手方と對應すべきであつて、斯うすれば木石のやうに冷酷な人でも必ずや動かされるであらう。

三、紹介状を差出す時の注意

先輩知人より紹介状を貰つて就職を希望するデパートの重役に面會する場合に於ては必ず自分の履歷書、並に就職に必要な書類名刺を紹介状と共に差し出すべきである。面會を申込む際に自分の名刺だけを出して紹介状を出さずに面會した上で始めて紹介状を差出す人がある。これは極めて拙劣な方法であつて、先づ面會せんが爲めの紹介状であるのを、面會してから差出すなど言ふことは氣が利かな過ぎる。こんな場合は大底不在だと云つて辭られるのが關の山である。即ち、未知な無名の一婦人に一々多忙な實業家は面會してゐられない。此の故に紹介状を持參せる就職希望者は、まづその在否を確めた上で紹介状と共に自己の名刺を差出すべきであらう。然るに甚だしく不注意な人は、その在否も確めずに紹介状だけを差出して不在だと云はれてそのまゝ歸つて仕舞ふ人もある様だが、かゝる不注意に出来る限り氣を付けねばならない。といふのは不在の時に紹介状を置いて來て仕舞つてから、次回行く時には紹介状無しで面會せねばならぬ。然るに多忙な實業家としては、曩きに紹介状で來た人で

あるかどうか云ふことなどは、とうの昔に忘れてその面會を謝絶するに違ひない。であるから若し自分が紹介された就職希望先の重役になり幹部が不在の時は必らず紹介状を渡して仕舞はずに取戻して置くことである。そして次回に訪問した際改めてその紹介状を差出すやうに注意せねばならない。往々にしてそうした不注意から紹介状の効果を自らぶち壊して仕舞ふ人が多いが、之は充分注意すべきことであつて、斯くの如く紹介状の出し方一つでも、求職者の常識程度といふものが測量されるから、かうした點の不注意から折角の就職を不結果に終らしめてはならない。

四、應對する際の注意

就職問題に限らず如何なる場合に於ても人に接する態度といふものは、充分なる注意をせねばならない。即ち餘りにスマシすぎた態度も慎しまねばならぬが、それかと云つて餘り恐縮してゐる態度も却つてよくない。いふまでもなく快活で明るい氣分で、そして婦人として奥床しい態度が何人にも好感を以つて迎へられる。よく先方を尊敬する積りで下を向いて應接する人もあるが、之はあまりに感心した態度ではない。

その反對に對談しながらも落付きなくキョトキョトと相手方を見廻すのも至極不愉快な態度である。一番よい態度は相手の顔を正視し眼を見合つて、そして眼を落さないで話すと言ふことが必要である。相手を正視することが出来ないで側を見て話をされると何んだか氣のりが薄く魂が半分抜け出して仕舞つた人ではないかと見られても致し方がない。對談中はハツキリと應答し、自分の言ふべきことは明確に云つて用件が済んだら遠慮なく腰を上げて辭去する。こうした態度の人は何人にも好感を與へるものであるが、之に反し、對談中終始煮え切らない曖昧な態度で應接し、辭去すべき時が來ても愚圖々々してゐて、それとなく相手に催促されるやうな應對の仕方は最もよくない。初對面の際にモチモチしたりソワソワしてゐるとそれだけ、輕卒な人だと云ふ印象を相手に與へるから、かうした態度は出来るだけ慎しむように心掛けねばならぬ。

五、言葉遣ひに對する注意

應對に於ける態度に充分の注意を要すると同時に、その際 of 言葉づかひと云ふこと

にも相當注意しなければならぬ。之れは應對の態度と關聯して、相手方の印象を良くも悪くもするものであつて、就職希望者にとつては頗る重大な問題である。即ち、沈着いたそして明快な奥行きのある言葉は、最も相手方を惹きつけるものであると共に、問はれたことに對して明確にイエス、ノーと答へ得る人は相手方に非常に好感を與へるものである。それに反して、不得要領な返事をしてそれを胡魔化したり、或は婦人の唯一の缺點である不必要なことを喋々と辯じたて、終始輕卒な感じを與へる人は、その就職試験に落第することは受合ひである。言ふまでもなく、簡潔明快は談話の秘訣であつて、冗漫な話しぶりは大禁物である。初對面の際は勿論のこと、よしんば相手方が知り合ひであつても、先輩に對しては敬語を用ひ、決して狎れ／＼しい言葉遣ひをして、ゆつくり話すやうにしてはならない。又かなり早口の人もあるけれども之もつとめて注意すべきである。何故かと言ふに早口の人はいくつの場合、輕卒に誤解され易い。尙野卑な言葉は絶対に使はぬやうに注意しなければならぬ。品性人格と云ふものは、自然言葉に現はれるから、下品な言葉使ひは下劣な人物かと誤解される恐れ

がある。それから低い言葉は先方で聞き取り悪いのみならず、優柔不斷の人のやうに思はれるから勉めて之れを避け、出来るだけハツキリした聲で應答するやうに心掛け、又、廻りくゞい言ひ方や同じことを幾度も繰返して話すことは甚だ感心しない。

六、禮儀作法に就いての注意

就職上更に注意を要する點は禮儀作法を正しくするといふことである。無作法といふものは何よりも醜いものであるから、禮儀作法だけは必ず注意せねばならぬ。馬鹿丁寧で、無暗にハイカラで、物腰がキザなものゝやうな人は却つて悪いが、そうではない婦人としての禮儀作法を心得、その應接に際しても丁寧謙遜に出るといふことは極めて奥床かしいものである。けれども今云つた通りその丁寧も餘りペコペコしたり、巧言令色は決して禮儀作法とは云へない。即ち、腹の中に守る處あつて行儀正しいのでなければ眞の禮儀作法には叶つてゐないのである。この故に禮儀作法の正しいのは最も効果ある推薦狀であるときへ言はれてゐる。

七、時間の觀念に對する注意

時間の觀念にルーズであるといふことは何事によらず悪いことであるが、況して實業家ほど時間を惜しむものはないから、就職を頼みに行つた場合には殊に之れを注意せねばならない。なんとすれば、思はぬところで時間の觀念に對する常識試験をやられることがあるものだから、用事が済んだら直ちに辭去し、相手方に時間的の迷惑をかけぬやうに勉むべきである。詮衡委員の場合もそうであるが『何卒御採用下さるやう宜しく願ひ致します』とハツキリと頼んで歸るべきである。一體惡氣があつてするのでは勿論ないが、用向が済んでも尙ぐす／＼してゐるのは氣が利かな過ぎると共に、時の觀念のない人だと誤解されやすい。對談中、先方が一寸時計を出して眺めたり、或は言葉が杜切れ勝ちになるのは、もう歸つてもらいたいといふ暗示である。それを察しないやうでは何と云ふ血の廻りの悪い人だらうと思はれる。又自分の志望する店の重役なり店から面會の通知があつたならば、必ずその指定時刻には間違ひなく訪問すべきである。電車が遅れましたからなど、言ひ譯をして遅刻する人は、時間の

觀念の乏しい人と思はれて、その就職上非常に不利な立場に置かれなければならない。一寸した不注意から一生の大事を逸することが多いからこの點を充分に注意して欲しい。

八、手紙の書き方に對する注意

就職運動をしてゐる人が、就職を頼む先方に依頼状を出すとか、或ひは先方から問ひ合せのあつた場合には、その手紙の書き方に就いて細心の注意が肝要である。即ち、先づ字體は明瞭にし且つ誤字脱字のないやうに注意し、それから御の字の使ひ方を誤らぬやう氣を付けねばならない。自分の方に御の字を使つた手紙を書く職人が多いが、是れは丁寧の心算でその實誤つてゐるのである。それから文字はなるべく簡潔明快に、讀んで直ぐ要領が分る様に書かねばならない。尙、月日の記入を忘れ、又自分の住所番地の記入も忘れる人があるが、之れには充分注意して欲しいと思ふ。最後に極めて些細なことではあるが、先方の宛名は出来るだけ丁寧に書き、手紙を書き終つたら必ず之を讀み返してから封入し、そして郵便切手は眞直に貼るべきである。

九、就職必勝法

人に面會するには以上の如き注意があるが、さて知人先輩等に紹介されて、デパートの重役、幹部に面會した後、先方から通知があるまで棚からぼた餅の落ちて来るやうに待つてゐるべきであらうか。面會した際にあのやうに熱心に頼み、そしてあのやうによい返事をしてくれたからには、必ず近日中に自分の就職は確實で、あの店頭で働くことが出来るものなどと、夢にも思つてはならぬ。先日會つてあれだけの話をして來たのだから、きつと記憶してゐてくれるだらうと思つたなら大間違ひである。何となれば、現代の如き就職難の激烈な時には、各商店の重役幹部は毎日新しい來訪者に接してゐるものを、一々覚えてゐる譯には行かぬから大低の場合忘れてゐる。何百枚といふ多数の履歴書の中から最初に撰擇してもらはんが爲めには先づ第一に自分の熱心の度を先方に認められることが一番大切である。それ故就職の爲めには何回でも訪問して、眞劍になつて、お百度を踏む覺悟でなければならぬ。さうすれば、若し店に缺員が生じた場合には、他の人々を置いて、特別な病氣や不具でないかぎり直ちに採用せ

らる事は確實である。世間には何十回も訪問したために、その熱心さと根氣とが相手に感動を與へ、たゞそれだけの要件で採用された實例もかなり多い。

第三節 採用試験に臨む場合

就職申込に必要な書類を取揃へて、學校、知人、幹部等より送り届けられ、ば、普通の場合は何れも受付られ、今度は先方から直接本人の宿所へ宛て、「来る何月何日何時より面會する故來れ」との通知が来る。

一、呼出通知

此の通知は履歴書に記載の宿へ發送せらるゝから、若しその記載が不完全なれば到着が遅延し、折角の採用試験にも間に合はぬことがある。故に提出したる履歴書中の宿所を轉じたる場合は、其の旨を直ちに訂正するか、または前の宿所へ依頼し置き、呼ばれた通知書は直ちに届くやう準備して置かねばならぬ。斯くして愈々呼び出された

日には、通知書を持参して行くことを忘れてはならぬ。それを持参しないと呼出された證據にならぬ。また持参すべしと書いてあるのを持参せざる不注意が、詮衡委員の採點には不利となるを免れぬ。

二、採用の標準

- (一) 健康であること
- (二) 意志の強固、人物の善良
- (三) 容貌も第一條件で人に不快な感情を與へない

まづ右の三標準によつて、多數推薦して寄こした候補者中、一應身體検査を行ひ、その人は果してデパートの店員として入る事の出来るやうな健康體であるや否やを調査する。學業はあまり重きをおいてゐない。中等以上ならよい。更に採用の可否を詮衡するに當つて、一回乃至數回に亘り本人に面會し、先づその人の言語、應對、態度等を觀て、人物試験を行ふのである。即ちその結果として、健康と人物と容貌と三拍子の揃つた人を採用するのであるが、大體に於てその採否の決定はファーストインプレ

ッションで解る。一二回位の面接に於いてその人を眞に知るなどと言ふことは到底不可能であるから、本人と面會した時の印象と云ふことが非常に重大である。此の故に詮衡委員に悪い印象を與へる人は如何に他の點がよくても到底その採用は覺束ない。従つて求職せんとする人が目的先の店を訪問した時、如何に應對したらよいか、そして又如何なる訪問振りをしたらよいかといふことは、求職者にとつて極めて重要な事柄である。

三、服 装

求職者の最も注意すべきとは、その服装である。先づ服装は何といふても小ザツバリしてゐるといふことが一番大切であるが、動もすれば此の點を少しも考へない人がある。小ザツバリしてゐる服装といつても、在學中であつたならば學校の制服で結構であるが、あまりに垢のついたのは先方に不快の氣持を與へることになるから、結局求職者にとつてこれだけか不利である。何も着飾るといふ必要もないけれども、苟くも人と面會するには垢のつかない小ざつぱりした服装がよい。それから求職者は何れ

も自分よりもずつと社会的地位のある人に面會するのであるから言葉を慎み姿勢なども正しく、そして頭髪などもごんな風にゆつてゐても亂髪にせず、正しく櫛入れして居つた方がよい。しかしあまりきらびやかな姿をして來る者は、その人の平生の心懸が思ひやられて採る氣になれないそうだ。

四、態度

何人にも畏るゝことなく、さりとして高ぶらず、平然として而も謹嚴に、呼び出されて銓衡室に入つたならば、扉は内より閉ぢ、步調靜かに落着いて、銓衡委員列席の前に進み、一禮してから、腰掛けよと言はれて、始めて椅子に着くやうにするとよい。

五、言語

更に言語に禮讓を失はぬことが肝要である。即ちその應答は明瞭にハキハキした態度をとり、分らぬことは分らぬ、知らぬことは知らぬと答へ、グズグズしてゐてはいけない。と云つても何も別にクドクドと餘計なことを喋る必要はなく簡單に判然と答ふべきである。中には友人などと話し合つてゐる時には、かなりよく喋べらるゝ人

が、かうした謂はゞ嚴めしい席に出ると、下を向いて低い聲で、唯、口の中でグズグズ言ひながら、ハツキリしないものがある。左様な人は平素から他人の所へ出て稽古して居るとよい。それから所によつて、例へば九州とか東北のある地方の人になると、その書いた物は別に變りもないがその用ひる言語は、都會の人には諒解に苦しむやうなことが多々あるやうである。國の人同志の應答なれば一向差支はないが、その就職に當つては、非常に損である場合が尠くないばかりか、大勢の客を相手とするデパートの店員としては、殆んど駄目であるから、この點は平素から注意して改めるやうにした方が宜い。言ふまでもなく言語は長上に對して禮讓を失はぬと言ふのが、その根本であるから、なるべく平常から丁寧な言葉を用ひ、粗暴な態度は避けねばならない。兎に角、求職者のまづ以つて戒めねばならぬことは、相手方に對して不快の感を引き起さしむるやうな言語や應答は絶対に避けねばならないといふことであらう。

『貴女の御両親は？』

——達者で居ります。

「何の御商賣ですか」

——小さく米やをしてゐます。

「御父さんはお酒を飲まれますか」

——ほんの少し……それも時々お夕飯前にいたゞいてゐるやうでございます。

「御兄弟は何人ですか」

——四人でございます

「あなたは何番目ですか」

——私は長女で下は妹二人に弟が一人居ります。

「何か御趣味がありますか」

——え、別にとり立て申すものもございませんが、長唄と生花を少しばかり習つてゐますが……

「お住ひの町の名は」

——大森新井宿です。

「省線ですね。驛まで何分かかりますか」

——十五分ぐらゐです。

「今迄何か病氣をされたことがありますか」

——ございません。

「何の爲に勤めやうとする氣になりましたか」

——震災にあひましてから家計の方が思はしくございません上に、妹が女學校に這入るやうになりましたので幾分なりと……

「お小使は月にどれ位いらいますか」

——何から何までゞ十圓もあればたりてゐます。

「今迄どこかでお勤めになつたことがありますか」

——いゝえ、どちらにも

「まだ未婚ですか」

——はい……妹たちがどうにかなるまでは働かうと思つてゐます。

斯んなことで一問一答をやつて居る間に人物試験が出来る譯であつて、別に六つかしい試験問題がある譯でもないから、要はその時に與へる印象の如何が、採否を決定する有力な動因となることをへ辨ねばならぬ。

第四節 就職に必要な健康に就いて

三越、松坂屋等各デパートに於ける女店員採用の標準の大體の必要條件を述べたけれど、それに増して重大視されてゐるものは健康であるか否かである。店員の病氣で欠勤したり退勤したりするほど營業の能率に影響を來すことはない。またその人自身にとつても自分の技倆の外に健康であるといことは極めて重要な條件であらねばならぬと共に會社側から云つても店員の保健といふことは重大問題である。それであるから最近に於いては、どのデパートでも、また他の銀行會社であらうが、人物を採用する場合は、人物試験の外に必ず體格検査を行ふことになつてゐるのであつて、ことにデパートは最近人物試験よりも體格検査の方を重視するやうになつた。然らばデパー

トがその採用考査に當つて如何なる體格の人を最も嫌がると云へば、先づどんなデパートでも一番警戒してゐるのは肺の悪い人である。云ふまでもなく結核と云ふ病氣は傳染の恐れがある病氣であるから、千人以上の店員を使用してゐるデパートでは、全體の店員の保健上かうした疾病のある人を採用するのは大禁物である。而も、この病氣は短時日のうちに死んだり或は職に堪へられなくなると云ふ種類の病氣とは異つて、所謂ブラブラ病であるから休養するにも相當長い期間を要するし、さればと云つて立派に全快して職に復する人は尠くないのだから、一旦入店させた社員を結核病であると云ふ單純な理由で直ちに解職する譯にも行ない。それであるから勢ひ空席のまゝで、本人の健康快復を待たねばならぬことになるのである。さういふことになるのとデパートにとつても不利だし本人にした處であまりよいことではない。即ち肺が悪い爲めに寒い日に通勤して一層健康を害し、それが因で取り返しのつかぬ結果を招來せぬとも限らぬ。又、自分では少しも自覺せずに、採用試験を受けて體格検査の場合に始めて肺の悪いことも發見されたと云ふやうな人は、假令、運よく採用されたとしても早晚健康

を害して、結局婦人の天職を完うすることが出来なくなるのは決つてゐるから、左様な人は豫め十分に保養して健康を恢復してから、入店した方が本人の爲めにもよし、且つ會社側も利益であるから相互の得策と云ふべきであらう。尙多少肺病と關聯のある助膜炎を病つて間もない人が無理な就職は一寸見合はした方がよい。なんとすれば斯ういう人は就職しても生活の激しい變化と、あの埃りの多い中の勤務の爲めに、割合に肺を冒され易い。従つてデパートとしても斯かる人は採用しないのである。然し乍ら、假令、助膜炎を患つたにしても、全快して二ケ年も経過し肺に故障もなく、熱も咳も出さないやうな人ならば、保健會社ですら保險契約をする位だからデパートにしてもこの程度の人なら、一應は本人の一般的健康状態を顧慮した上で採用してゐるやうである。右のやうに肺に關係ある病氣は就職すると本人の健康を著しく損ふのみならず、他の店員に傳染するの懼れがあるから、各デパートに新店員採用の場合は健康診断に就ては特に注意されてゐるのである。各デパートはトラホーム、皮膚の傳染病、婦人病も非常に警戒してその採用詮衡の場合に、かゝる疾病を有する人は絶対に

採用しない。近視眼の人はどのデパートに於ても採用の見込が殆んどない。

第五章 各デパートの内容と採用方法

第一節 各デパートの希望する條件

「けふは三越、あすは帝劇」といふた言葉は、その昔、三越の某重役が、自店の廣告宣傳の爲めに考へ出したものだといふが、その時代に在つては、デパートと言へば兎角贅澤品を賣る所と思はれてゐた。今は時代も變化した。勿論今日でも百貨店には贅澤品も並べてあるが、それよりも日用品を豊富に陣列して、便利に廉價に販賣するといふのが目的となつた。かくの如くにしてデパートが日用品の販賣に力を注ぐに至つた結果として、賣上げ高は年と共に増加し、近年は財界の不況を唱へられながらも、百貨店は年と共に繁昌を示すの有様であり、營業が漸次繁榮すると共に、同業者

の競争も激烈となり、また新しい同業者も現はれるといふ事になる。

デパートとしては、何と云つても三越が御大であらうが、必ずしもさうばかりは言へない、現に震災後銀座に進出した松屋の繁昌は何人も意外とする所である。上野の松坂屋は、従前から一種の特色があり、震災後、これも亦銀座に別に店舗を出し、名古屋の本店と共にますます勢力を伸しつゝある。白木屋は震災の爲めに容易ならざる打撃を蒙つたが、今や新築も成つて再興の勢を見せつゝある。高島屋も日本橋に新設して各デパートに對峙してゐる。亦地下鐵の各デパート連絡開通と共に益々接近し、競走は激甚となつて來た。

進まざれば退くとは何れの方面に在りても同様であるが、日々幾萬の人々を送迎する百貨店の如き、特にその感があると言ふべきであり、天下の三越、まさか三日や五日の怠慢があつたとするも、他に追ひ越さるゝと云ふことはないであらうが、「兎に角日々に新にして日々に又新」の覺悟がなければ、何時同業者に追ひつかれ、勢力が滅殺されるに至らぬとも限らぬ。三越白木屋が大阪に支店を設け、東京、大阪の勢力

の及ぶ事の薄い九州、北海道には又別個のデパートが出現し、競争をさく／＼怠りなしといふ有様である。

かくの如く多くのデパートがあるとするれば、各特徴とするところもあり、その採用品希望する人間も店によつて多少の差違はあるとも言へやうが、何としてもデパートはデパート、齎しくデパートで希望する人間、そこに共通の條件があるであらう。次に二、三のデパートの内規を示さう。

(一) 三越

三越は我國デパートの先祖で、常に新機軸を出して此の業の先驅を爲すが、其の店の採用人物に就て希望する所は、

イ 身體の強健なこと 平生普通の銀行會社よりも休日の少ない上に、朝は八時より晩は六時まで、遅い時は午後十時までも働かねばならぬ故、健康體でなければ到底勤まらぬ。

ロ 思想の堅い人 殊に女は男に較べて兎角内心がふらく／＼して移り易く、落着の

ないのは非常に困る。一旦採用せられた以上は、十分に腰を据ゑ、相等の年齢に達するまで、働かうと云ふ人を望む。

ハ 學校に於ける成績は普通であればよろしい。

ニ 人物としては思想の穩健なる者を望み、濫りに何々主義など唱へる人は、他の人にも迷惑をかけ易く、店としても危険なる故に之を望まない。

ホ 容貌も第一條件である、何分にも多數の御客相手の商賣だけに、容姿の備つた、人に接して感じの悪くない容貌を望む。

初任給 高等女學校 一圓二〇

高等小學校 九〇

尋常小學校 八〇

イ 女學校出の者は二ヶ月見習とす

ロ 高等小學校出の者は十八歳以上二十二歳迄は上記の初任給を給し十八歳以下は初給七十錢を給す。

ハ 高等及び尋常小學校出身者は滿十七歳に達すれば凡て店員に昇格し日給一圓を給す。

昇給 年一回、本俸の一割程度、優秀なる者には臨時昇給がある。

賞與

イ 月俸を六ヶ月間の出勤すべき日數で割り其の内に六ヶ月間の實際出勤日數を乗じたる積を普通賞與とす。

ロ 純益金中より株主配當金を控除したる殘高を勤務成績に應じ、最高本俸四ヶ月分より適宜特別賞與として分配す。

休暇 毎月八日十八日二十八日を公休とし、半期間皆勤者には六日間を賜暇休暇とす。正月三日間は休業す。

購買特典 店員が店より物品を購入する場合は定價の一割引とす。但しマーケットの品物は五分引とす。一ヶ月間の購買價格は本人の月給額内とす。

食事 一般店員の爲食堂を設け朝食十二錢、晝食二十錢の食事給與す。

二、松屋

同店經理部次長吉川彌助氏が、是は單に自己のみでなく、主任者の意見をも參酌したものであると斷つての談によると同店で採用試験を受けた女子數百人に就ての成績は大體左の如き結果ださうである。

イ 體格は一般に悪い。

ロ 容貌や頭に傷跡があつたり、指先の不自由な人であつたが、さういふ人は容貌風采を重んずる百貨店には向かない。

ハ 意志『將來どうするか』とか『何年位勤める積りか』との間に對して返答の出來ないのがある。また『何故當店を志望したか』と問へば、唯だ『氣に入つたから』といふのがあるが、甚だ當にならぬ。畢竟此れ等は、意志が定つて居らぬ證據だ。

ニ 應對 言語がハキハキして應接に圓滑な人が少い。服装、髮の結び方、髮飾り等が華美であり、身のこなしが年配以上に大人振り、往々商賣人風の者もあつたが、感じの好くないものである。デパートでは、男女ともに店員は人に好い感じを持たれる

ことが極めて大切である。

ホ 本人には申分は無いが、家庭の事情の爲めに採用し難い様な氣の毒なものもあつた。例へば家に係累が多く、収入の大部分を家の方へ仕送らねばらぬ様な人は、兎角仕事が入並にやつて行けない傾向になり易い爲めに、採用し難いことになる。但し弟や妹に學資を貢ぐ者も多いが、斯かる人は意志も強固で、相等に永續すると思はれる。

以上は松屋に於て、採用試験から見たる志望者の批評であるが、其れを細讀すれば、同店が希望する人物は、第一に體格の強健なること。第二に容貌の整つてゐること、第三に意志の強固なこと、第四に言語の明瞭で、應對の圓滑なこと等で、學問は餘り優秀なことを必要とせず、家庭に係累多い者も好まない意味が察せられる。

初任給 高等女學校 日給 一、〇〇

高等小學校 〇、八〇

尋常小學校 〇、七〇

イ 女學校出のものは二ヶ月間見習ひとす。
 ロ 當店希望は主に小學校出であつて、大部分食堂給仕として、一、二年の後店員として賣場に出す方針である。

賞與

イ 年二回、六月、十二月
 ロ 本俸の七割から十割まで
 手當 夜間營業は九時まで、約四十錢ぐらい。
 休暇 全部のデパートと等しく八の日
 購買特典 三越と同様
 食事 一般店員の爲、朝八錢、晝晩は十三錢の食事を給與す。

三、高島屋

初任給	高等女學校	日給	一、〇〇
	高等小學校	同	八五

尋常小學校

七〇

昇給 毎年棚卸毎（每一月及七月）に本俸の一割以上二割
 賞與 半期毎に本俸の二ヶ月乃至三ヶ月分、尙右の外中元、年末に一戸を構ふる者に對して本俸の半ヶ月分の手當金を給す。

購買割引 三越同様

四、白木屋

デパートも商賣人である以上、明るい愛嬌に富んだ常識圓滿で意志強固なものでなければ、理想店員といふことが出来ない。現在白木屋は約一千名の女店員があるが、中等程度のもものは白木屋商業學校へ入れて所謂白木屋式の店員を作り上げ、各長所に從つて實習に付かしめることになつてゐる。

女店員は今後高等女學校卒業程度を標準としてゐるが、特別の關係者又は止むを得ない推選者による者は高等小學校卒業も採用してゐる。又強ひて美貌を必要とする譯ではないが、客商賣であるだけに特に愛嬌あることは必要で、舉動の上品な、而し

て快活でハキ／＼仕事出来得る性質のものであることが人物選定の唯一の条件である。

最初食堂其の他で勤務し、成績の優秀なものから賣場へ廻すことになつてゐる。女子の給料は全部日給で、初任六十錢位から八十錢位までであるが、この店は男女平等で、女子の係主任も認めてゐるから、こゝまで立身すれば月給となり、月收八、九十圓になり、更に年二回、毎回少なく共一ヶ月以上のボーナスがあるから、生活は立派に保證される。

以上は大體のデパートの採用条件と内規であるが其の他何れのデパートを見ても、採用方針と方法は大體大同小異で一時に多數を採用する場合の外、公募せず、大抵關係者の推薦と學校の推舉又は職業紹介所へ依頼して採用するやうである。

第二節 一般の採用方法

一 採用申込者を一定の時期に採用銓衡す。

一 繁忙時に臨時雇を採用しその中より成績優良な者を本雇とす。

一 職業紹介所へ申込み依頼。

主に右の様な方法で東京市の各デパートは女店員を採用してゐるのであるが、近頃次第に職業紹介所へ求人申込みをするやうになつた。その時期は一定せず各デパートで缺員の生じた場合に求人依頼するから、デパートの女店員にならうとする人は豫め職業紹介所へ求職申込みをしておくがよい。その事に就いては改めて別に述べようと思ふ。しかしながら幹部知人紹介で入社する者が澤山ある故、希望者はまづ希望する店の重役幹部を紹介してもらふ事もよい方法である。一人もさういふ縁故、知人はないと言はれる方もあらうが、ふだんより心掛けて、先輩、知人、友人に相談したり話したりして、自己の人格を認められるやうにしたら必ず骨を折つてくれる人があるものである。出来得る限り上役がよい事は勿論である。

「一寸した知り人からそんな世話になるのははづかしいわ」なんて言つてゐる方があつたなら、まだその人は眞にデパートの店員にならうとする職業意識に燃えてゐな

い證據である。しかし自分が女店員としての能力が缺けてゐるならば、駄目であるが、さうでない限りよく行つた方がよい。毎朝氏神に祈願するつもりで日參なさい。しかし全然知らない家であつたら、安い折函を持參するのも又よい方法である。又名刺があつたら何回まゐりましたと書き入れて取次の方に渡すのもよい方法であらう。理くつで云ふより情で自分の熱心の度を感じさせるがよい。

けれども、紹介者があるからと云つて職業紹介所を輕視してはならぬ。職業紹介所に求職票を出しておいて、知人縁故を尋ねるべきである。二兎を追ふ者は一兎を得ずと云ふが、けつして二兎を追ふのでなく、求むるものは一兎で、萬全の方法を試みるのである。

地方より上京してデパート女店員にならうとする人々に

東京市内のデパートでは東京市近邊に存住する者である事を要求し、又客相手の商賣故言葉の綺麗な事を必要とするのであるが、地方の人は言葉が少し不明瞭であるから、しばらく東京へ来て、なれる事が必要である。しかし乍ら、地方の人々も都會熱

にうかされて、無暗に上京したならば、必ずや、墜落のどん底に落されてしまふのである。田舎の不景氣にも、まして、都會は毎日の新聞にある通り一層の就職難であり、誘惑の魔の手は擴げられてゐる。であるからまづ知人親戚をたごつて上京する必要がある。そしてゆつくりと時機を待つべきであつて、決して一時の輕卒な舉に出でゝはならぬ。

第三節 職業紹介所の利用に就いて

一、紹介所の利用

職業紹介所の利用が男子の獨占舞臺の様考へられ、婦人は僅かばかりの、ある婦人専門の職業紹介所に、それもほんの限られた人々が通ふと言つた状態は極々最近まで續いたことの様だが、今日では全國的に言つても紹介所は次第に婦人にも利用されて來てゐる。都會などでは餘程利用される率も高まつて來てゐるやうであるが、まだまだ男子に較べては少ないと言はねばならない。最近の職業紹介所を通じて見た求

職者と求人との関係は——尤も統計は昭年五年までしか得られないが——昭和四年度
總計に於いて、求人が求職者を超過すること、一万七千人、昭和五年度に於いて同じ
く一萬三千七百人で、之等の過數が充されるのは、結局個人の紹介と、直接の契約に
よるものと思はれる。そこで職を求める人が誰でも紹介所を利用するといふことにな
れば、それによつて必ず婦人の失業が緩和されようとは夢想はしないが、さうすれば
うっかり廣告を見逃すやうなこともなくて、幾らかの助けとなりはしないかと思はれ
る。

二、紹介所に準備して行く可き事柄

婦人がかく未だ紹介所を利用する事が少いとすれば、それは紹介所のあることを知
らない人があること、紹介所の様子を知らない爲に、何となく、足を運ぶのがいやに
なる事もあるだらう。又折角紹介所に足を運んでも、手續の點でまごついたりして、
一度で用事が足りない等の不便を避ける爲めに、大體次のやうな準備をして行く必要
がある。

イ、職を求める人は誰でも自分自身で行かねばならない。

ロ、履歴書か、戸籍抄本か、本籍役場の身分證明書、前雇主の證明書、身元引受書
等の何れか一通持参した方が宜しい。

ハ、紹介所婦人部の受付に行けば係員から次に示す様な求職票を渡すから、これ
に夫々欄の要求する所を記入するのであるが、東京市では大體次の事柄を記入
することが必要の様である。

- (一) 氏名
 - (二) 戸主の名及續柄
 - (三) 年齢、生年月日
 - (四) 配偶者の有無、養
はねばならぬ家族數
 - (五) 現住所
 - (六) 本籍
 - (七) 希望職業
 - (八) 保證人の氏
名、住所、保證人との關係
 - (九) 修業の程度
 - (十) 技能經驗
 - (十一) 前職業
 - (十二) 東京に在住した日數
 - (十三) 前給料
 - (十四) 失業理由、前雇主の氏名、
住所、年月日、前勤務時間
 - (一五) 希望條件として通勤、住込、月給、日給等、
- ニ、後は係員の質問に答へる事と、もし即日希望する職業があれば、そこへ訪問
して行く事になる。

以上は一般の紹介所に於ける手続きであつて、特にデパートに限られてはゐない。次にデパートよりの求人依頼のあつた場合を述べよう。

デパートより求人依頼を受けた場合は、當方に求職申込みのある者からまづ豫め次のやうな標準で撰擇する。

- 一、朗らかで、あいきようのある人。
- 一、言葉のはきはきと明瞭な人。
- 一、大體に於いて健康な人。
- 一、十八から二十二歳までの未婚女性、但し地下鐵、伊勢丹、三福、ほていやは二十三歳まで可。

大略右の要求に合つた人々を豫定數より多く先方の求人のおつた店に訪問さす。そして又先方で一應銓衡する。各デパートは相等澤山の女店員を採用してゐるから僅か二、三ヶ月間に百五、六十名も求人申込みに來てゐるさうである。

給料は初任給七十錢乃至一圓程度、各商店の職場により相違する、エレベーターガ

ールは割合に高く、食堂給仕は安い。それ以上商店の内部の事までは信用にかゝるから申されない。以上は東京市知識階級職業紹介所婦人部主任の言葉である。右のデパートの女店員の取扱を主にする場所は、

東京市知識階級職業紹介所婦人部 (高等女學校程度卒業生)

東京市小石川區小石川町一 電話小石川(85)二四九〇
六七六〇
五六五一

東京市婦人少年職業紹介所 (小學校卒業生)

東京市本郷區元町一ノ一六 電話小石川(85)二〇九二
四四四二

東京府職業紹介所 (高等女學校、小學校卒業生)

東京市小石川區小石川町一 電話小石川(85)三六〇七

第四節 デパートに求職する婦人の環境

これは昭和六年十月東京府社會課發表の「職業婦人の環境調査」であつて、昭和六

年七月二十八、二十九、三十の三日間に亘り、東京府職業紹介所に於いて、淺草松屋美松、白木屋の三大デパートより、求人依頼を受け、その際に就職希望者女一萬七百八十四人中、女五千七百七十九人について調査したるものを集計発表したものである。

イ、世帯の構成、職業婦人の現在世帯の構成は如何なる状態であるか。人員別構成状態に就いて、これを見るに、左表の如くなる。

世帯構成人員表

世帯構成人員	自分一人	二人	三人	四人	五人	六人	七人	八人	九人	十人	不明	合計	平均
世帯数	九四三	三二〇	七九四	一、三九一	三、八九	七九	三〇九	六	三	一	一七五	七、七九	(三、九人)
割合(%)	一六・三〇	三・六三	一三・七四	二三・〇〇	二四・〇三	一三・八〇	三・六三	一・二八	〇・四〇	一	〇・三〇	一〇〇・〇〇	

ロ、家族構成 各世帯人員の家族關係を調べて見ることは極めて興味あることである。これに就いては、父母、兄、姉、弟、妹、祖父母、の順位で、父母を有するものが最も高く、兄、姉、弟、妹が之に次ぎ、祖父母兩者を有するものが一番少ない。ま

た、祖父母の場合、父母の場合、何れか一方が缺けたるものについては、ともに男子の缺けたものゝ方が、女子の場合に比して三倍も多いといふことに注意すべきことである。すなはち父又は祖父を亡つてゐるものが多いのである。

家族構成表

家族	家族有無	人員	割合
祖父母	兩者あるもの	四九四	八・五五%
	祖父のみあるもの	二一三	三・六七
	祖母のみあるもの	九五一	一六・四六
	兩者なきもの	四、一〇五	七一・〇三
	不明	一七	〇・二九
計		五、七七九	一〇〇・〇〇

家族	家族有無	人員	割合
父母	兩者あるもの	四、一三三	七一・五二

父のみあるもの	三八九	六・七三
母のみあるもの	九七一	一六・八〇
兩者なきもの	二六九	四・六六
不明	一七	〇・二九
計	五、七七九	一〇〇・〇〇
三人以上	四五〇	七・七九%
二人以内	二、六八五	四六・四八
無きもの	二、六二七	四五・四六
不明	一七	〇・二七
計	五、七七九	一〇〇・〇〇
三人以上	五三九	九・三三
二人以内	二、六二〇	四五・四三
無きもの	二、六〇三	四五・〇四

弟

兄

不明	一七	〇・二九
計	五、七七九	一〇〇・〇〇
三人以上	四一七	七・二二
二人以内	二、四七五	四二・八三
無きもの	二、八七〇	四九・六六
不明	一七	〇・二九
計	五、七七九	一〇〇・〇〇
三人以上	五六二	九・七三%
二人以内	二、五四一	四三・九七
無なきもの	二、六五九	四六・〇一
不明	一九	〇・二九
計	五、七七九	一〇〇・〇〇

姉

妹

ハ、家族中働く者、現在同居家族中、「働く者」について調べて見ると、父のみ働く

家庭が絶対多数を占めてゐる。之によると父のみ働く家庭が總数の約五〇%を占め、他に兄と姉、母の働く家庭が比較的に多いといふことを示してゐる。

家族中働く者の表

働く者	人員	割合
總數	五、七七九	一〇〇・〇〇
父のみ	二、八一七	四八・七五
兄のみ	一、一九八	二〇・〇三
父と兄	四〇二	六・九六
母のみ	二四二	四・一九
姉のみ	一三四	二・三二
父と母	一〇〇	一・七三
父と姉	七六	一・三二
兄と姉	六二	一・〇七

其の他	三三五	五・七八
働く者なし	三五六	六・一九
不明	五七	〇・九九

ニ、希望する勤務の種類 本調査の三大デパートへの就職希望者がデパートの何處に勤めたいかといふことは、かなり近代娘氣質を示してゐると思ふ。

希望勤務種類表

希望勤務	人員	割合
總數	五、七七九	一〇〇・〇〇%
賣子	三、五四八	六一・三九
食堂	一、一四三	一九・七八
事務	三九七	六・八七
雜役	二五二	四・三六
不明	四三九	七・六〇

以上によつてデパートの「求職者の環境」の一端を知り得たわけである。

第六章 デパート女店員

第一節 デパート女店員とは

東京市内だけでも十を数へる各デパートの地下から屋上までの各階に勤める青い上着に身をつしみ、商品陳列臺越しに「いらつしやいませ」「ありがとう存じます」と愛嬌をふりまきながら、澤山のお客に接してゐる賣子や、ひばりの様にたへず御客に各階の商品の案内しながら上つたり下りたりするエレベーターガールから、白いエプロンを掛けて、御客の用向を聞いたたり、食物を運んだりするのに、せまい椅子の間を繼つてかひがひしく働いてゐる食堂給仕の小鳩達に至るまで幾人ぐらゐるであらうか。東都三越本店だけでも千人以上と云ふから驚かざるを得ない。こんな澤山な若

い昭和の女性が、朝には白木屋松坂屋の本店、松屋の本店、ほていや、美松、高島屋、地下鐵の各ストアの通用門から大きな建物の中に吸ひ込まれ、一日あの店頭で働き、そして夕べには疲れた足ざりて又あの通用門からはき出されてゐる。それが長い間には病氣もすれば故障も生じて来る。かくして餘儀なく姿を消す者もあれば、他の店に轉ずるもの、家庭生活に入る者東京市のデパートだけでも一ヶ月百人以上は必ずあるであらう。

何故多くの女性がデパート女店員を希望するであらうか。それは仕事が單純である。店が多きから給料が確實である。時間も規則正しいこと等理由からであらう。そして小賣商店や外の會社も又別な長所も見出されるからであらうと思はれる。もう一つ彼女等がデパートを希望する見逃されぬ理由は、都會の華美に流れた女性の虚榮心が、あの流行の粹を集めて飾つたショーウィンドの中で働く事に満足を感じるのであらう。即ちあの衆目的である虚榮の殿堂の中に生活することが、彼女等の自尊心を高めて一途にデパートを讚美するのではなからうか。かくして自家を離れた若い乙

女達はあの店頭で世の荒浪にさらされて、昔の奥行かしい女性のほこりは知らぬ間に消えて、いつしか所謂女店員らしき婦人となつてしまふといふ事は遺憾である。けれども之は必ずしも彼女等自身の心の緩みとのみ責める事も出来ない。外界からの刺戟と、誘惑とが、自然と彼女達を、こんなな墮して行くのであらうと思はれる。

けれどもそれは全部とは云へぬ。同様に臺所から飛び出した女性の中にも、強き意志を持ち誘惑と闘ひ、健氣なる志操を以つて働かうとする若い女性がある。その勇敢な姿を見る時始めて昭和の女性にふさはしい美しさを見出すのである。

デパートの女店員に對する小言は、勤続年限が短い、缺勤、遅參早退が多い、理性に乏しく感情に支配され易い、饒舌なりと言つてゐる。けれども、やはり女店員を多く採用する所以は、どうしても男子の店員よりも婦人の方が御客に好感をもたせる。従順である。比較的給料も安い等の事から、次第に男店員よりも數が多くなる模様である。今日のデパートは換氣が悪い上に、泥靴と、泥下駄、草履からまかれる塵埃のおかげで終日立通して働いてゐる彼女等も、らくではない。その上に、呼吸氣病、脚氣、

婦人病、頭痛と云ふやうなビルディングに住む婦人特有の肉體的缺陷が生じて来る。

一様にデパート女店員とは云ふものゝ内部に於ける仕事は全然異つてゐる。デパートで働いてゐる女店員は、その仕事の種類によつて色々の名稱がつけられてゐる。

- 一、販賣係
- 二、レジスター係
- 三、事務手傳
- 四、電話交換係
- 五、休憩室接待係
- 六、食堂給仕
- 七、エレベーター係
- 八、エスカレーター係
- 九、女店員監督
- 十、デザイナー
- 十一、裁縫工
- 十二、掃除人

右の中、一番多いのは販賣係であつて、直接賣場に立つて客に接するものである。販賣係の選擇と配置とは仲々重大であつて、客に好感を與へて購買力を生ぜしむるのには、愛嬌ある親切な店員を置くと同時に、適材適所を考へないと、賣れ高にも影響するものである。

レジスター係といふのは、賣場に於ける金錢の出納をしたり、販賣係の賣高を記入したりするものである。大切な金錢を取扱ふのであるから責任は重大である。デザイナーといふのは洋服部に居てデザインをするもので、數は至つて少ない。

食堂給仕は、まだ子供であつて女店員の卵である。やがては彼女達も賣場へと進出して來るものである。

エレベーターガールは相等あるが其の他は至つて少ない。

デパートの女店員にならうとしてゐる婦人の爲めに、あのはなやかな生活をしてゐる女店員の内幕を示して、彼女等の身の上は大體如何んな人々が多いか、就職した経路、給料、年齢、勤続年限を次に記述して見やう。

以下に示す統計のデパート女店員といふのは主に賣子とか雑役、休憩室接待係のやうな店員で事務員や電話交換手をのぞき、又別に勤肉労働であるエレベーターガールの實相を示し、食堂給仕の實相も別に示す。

デパートの電話交換手とか事務員とかタイピスト等は、デパートの女店員とは云ふものゝ特殊な技能を有するものである故此處では除く。

第二節 デパート女店員の實相

一、身 上

(一) 就職の目的及び方法 就職の目的は女店員にあつても家計補助の爲めといふのが大多数で約七割を占め、自活又は嫁入仕度の爲めといふのがこれに次いでゐることはこれ又事務員と同様である。

就職の目的	人員	割合
總數	二、一一五	一〇〇・〇〇%
家計補助の爲め	一、四五六	六八・八四
自活の爲め	一七六	八・三一
嫁入仕度の爲め	一三三	六・二九
貯蓄小遣取りの爲め	二四	一・一三
子女弟教育の爲め	四	〇・一九

就職の目的

人員

割合

學費を得る爲め

九

〇・四三%

修養、趣味習得又は實社會經驗の爲め

一七一

八・〇九

事務、技術習得又は職業婦人希望の爲め

六一

二・八九

將來の準備其の他

九

〇・四三

特に理由なきもの

七二

三・四〇

就職の方法は父兄親戚又は知人の手蔓によつたものが過半を占め、以下職業紹介所の紹介、學校の紹介による者の順であるが、事務員にあつては學校の紹介による者が三割二分で比較的多數なのに反し、店員に於てはその割合が著しく減じて一割三分に過ぎず、職業紹介所の紹介による者は、事務員の四分に對し店員は一割八分といふ割合を示してゐるが、こゝに兩者の學歷による就職方法の相異を見ることが出来る。

就職の方法

人員

割合

總數

二、二五五

一〇〇・〇〇

就職の方法

人員

割合

父兄親戚又は知人の紹介

一、一四三

五〇・六九

學校の紹介

二九三

一二・九九

職業紹介所の紹介

四一五

一八・四〇

募集廣告

三一四

一三・九三

前勤務先の紹介

—

口入屋、其の他

九〇

三・九九

(二) 年齢及び配偶關係 女店員の多くが妙齡であることは事務員と同様であるが、店員には比較的若い人達が多く、その六割が二十歳以下の者でこれに二十五歳までの者を合すれば實に總數の九割五分といふ多數を占めてゐることになる。

初めて職業に就いた年齢は十四歳乃至十六歳の者が最も多く四割四分、十七歳乃至十九歳の者が四割一分であるがこれは事務員と反對で店員には高等小學校卒業者が多い結果である。

店員の現在年齢別

店員最初の就職年齢

年齢別	人員	割合	年齢別	人員	割合
總數	二、四〇一	一〇〇・〇〇%	總數	二、三七八	一〇〇・〇〇%
一五歳以下	二七	一・二三	一三歳以下	三七	一・五六
二〇歳同	一、四一八	五九・〇六	一六歳同	一、〇三七	四三・六一
二五歳同	八三一	三四・六一	一九歳同	九八三	四一・三四
三〇歳同	七五	三・一二	二二歳同	二四二	一〇・一八
三五歳同	二四	一・〇〇	二五歳同	三一	一・三〇
四〇歳同	一四	〇・五八	三〇歳同	一七	〇・一七
五〇歳同	九	〇・三七	三五歳同	一五	〇・六三
五〇超過	三	〇・一三	四〇歳同	一〇	〇・四二
			五〇超過	—	—

以上の如く女店員は二十歳前後の若い人達が殆んど全部を占めてゐる關係上、二千

三百八十八人中その九割七分は未婚者であつて、有夫者は僅かに三十八人、生別者十人また死別者が二十三人である。

これを年齢別に見ると有夫者は十六歳乃至二十歳の者が一人、二十一歳乃至二十五歳の者が十一人、二十六歳乃至三十歳の者が十一人、三十一歳以上の者は六人でありまた死別者は二十歳乃至二十五歳の者が一人、二十六歳乃至三十歳の者が二人で、三十一歳の者が二十人である。尙女店員中三十一歳以上の者で未婚者は三十一歳乃至三十六歳の者が僅かに六人だけである。

(三) 教育程度 女店員の教育程度は過半が小學程度の者で、高等小學校程度の者が最も多い。女店員は多く直接客に接する販賣業務に従事するものであり、その智識學問の活用といふよりも寧ろ容姿と健康と社交性を必要とされるからである。

教育程度	人員	割合
總數	二、三八二	一〇〇・〇〇
學歷なき者及び尋常小學校	三三八	一四・一九

高等小學校	一、〇八二	四五・四二
實業補習夜間女學校及び特殊技藝學校	一三二	五・五四
商業學校及び實科女學校	二二一	八・八六
高等女學校及び専門合格者	六〇八	二五・五三
大學及び専門學校	一一	〇・四六

附記 在學中及び中途退學者をも含む。

二、勤務

(一)初任給及び勤続年限 女店員の初任給、即ち初めて職業に就いた時の給料は二十一圓乃至三十圓といふのが大部分で二千三百十七人の内八割三分がそれである。

現在の職業に就いた最初の給料

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	二、三一七	一〇〇・〇〇%	四一・一五〇	一九	〇・八二%
二十圓以下	一六二	六・九九	五一・六〇	二	〇・〇九

二一—三〇	一、九二九	八三・二五	六一—以上	—	—
三一—四〇	二〇五	八・五五			

勤続年限は事務員と同様まづ五年が境であつて、五年を超える者は、著しい減率を示して居り、五年を超えるものは僅かに一割に過ぎない。一般的に勤続年限が短いといふことは職業婦人の欠點の一つと見られてゐるが、それは前にも述べた如く、就職の目的が多くは、家計補助乃至は嫁入仕度の準備にあるといふこと、他面に於てはデパート女店員としての進路が未だ充分に開けてゐないことに因るものといひ得るであらう。

勤続年限	人員	割合	勤続年限	人員	割合
數	二、三九四	一〇〇・〇〇%	七年以下	一七一	七・一四
一年以下	六八三	二八・五三	一〇年"	五六	二・三四
二年"	七〇二	二九・三二	一五年"	一四	〇・五九
三年"	三六九	一五・四二	五年"	三九六	一六・五四

(一) 収入

イ、給料 女店員の給料はその一人平均が二十八圓九十一錢であつて、二千三百二十二人の中二十一圓乃至三十圓までの者が約六割三分を占め、三十一圓乃至三十五圓までの者が二割四分で三十五圓以下のものは全體の八割八分といふ多数である。

給料

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	二、三三二	一〇〇・〇〇%	三六一四〇	二〇三	八・七四%
二〇圓以下	三三二	一・三八	四一―五〇	五二	二・二四
二一―二五	七〇五	三〇・三六	五一―六〇	七	〇・三〇
二六―三〇	七五三	三二・四三	六一―以上	六	〇・二六
三一―三五	五六四	二四・二九	一人平均		二八・九一圓

ロ、手當及び賞與 手當は精勤手當、殘業手當等であるが、女店員は手當を受けるものが過半で、二千八十七人のうち一千九十一人は多少に拘らず之等の手當を得てゐる者である。

る者である。

手當金額としては一圓以上三圓以下の者が五割四分で、普通のところといひ得べく、一圓以下の者が一割六分三圓以上五圓以下の者が一割五分で一般的には女店員の手當はまづ五圓以下と見られる。

賞與は手當と異つて大多數の者が貰つてゐるが、賞與の支給を受けない者が二千二百八十三人中四百八十人を算することは、種々の事情があるとしても、現下財界不況の一反映と見ることが出来る。

賞與金額を月額にして見ると一圓超過五圓までが過半で五割五分を占め、五圓超過十圓以下といふのが三割四分である。

手當(月額)		賞與(月額)			
金額	人員	金額	人員		
總數	一、〇九一	一、〇〇・〇〇%	總數	一、八〇三	一〇〇・〇〇%
一圓以下	一七九	一六・四一	一圓以下	一三四	七・四三

金額	人員	割合	金額	人員	割合
三圓以下	五九四	五四・四五	三圓以下	五八〇	三二・一七
五 "	一七二	一五・七六	五 "	四一四	二二・九六
七 "	三三	三・〇二	七 "	三三〇	一八・三〇
一〇 "	二九	二・六六	一〇 "	二八四	一五・七五
一五 "	七九	七・二四	一五 "	四六	二・五五
二〇 "	五	〇・四六	二〇 "	一〇	〇・五六
三〇 "	—	—	三〇 "	五	〇・二八
三〇超過	—	—	三〇超過	—	—
外に手當なき者	九九六	—	外に賞與なき者	四八〇	—

ハ、家庭よりの扶助及び其の他の収入 以上述べた給料乃至賞與はその勤務による勤勞所得であるが、この外に収入としては、家庭よりの扶助及びその他の雑収入がある。之等の収入ある者は極く少数であつて、家庭其の他の収入ある者は二千三百九十九人のうち僅かに三分即ち七十六人で、その金額に何れも一圓以上五圓以下の者が過半である。

半である。

家庭其の他よりの扶助

其の他の収入

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	一七九	一〇〇・〇〇%	總數	七六	一〇〇・〇〇%
一圓以下	一七	八・六三	一圓以下	一六	二一・〇五
三 "	四八	二四・三六	三 "	二二	二七・六三
五 "	五八	二九・四四	五 "	二	〇・二六
七 "	一六	八・一二	七 "	—	—
一〇 "	二六	一〇・二〇	一〇 "	七	九・二一
一五 "	一三	六・六〇	一五 "	二	二・六三
二〇 "	一三	六・六〇	二〇 "	一	一・三二
三〇 "	六	三・〇五	三〇 "	一	一・三二
三〇超過	—	—	三〇超過	五	六・五八

外に扶助なきもの一、八一三 外に収入無きもの二、三二三

ニ、収入總數 以上女店員の収入關係につき概観したが、その基本となるものは給料であつて、給料以外に於いては賞與が僅かに一般的の収入と見られ得るのみである。従つて収入總數に就て見るも給料と同様三十五圓以下の者が最も多く、二千九十四人の女店員中五割八分を占めて居り、収入總數が五十圓以上になるものは僅かに百八人のみである。

収入總數

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	二、〇九四	一〇〇・〇〇%	三六一四〇	三七四	一七・八六%
二〇圓以下	一一二	〇・五七	四一―五〇	四〇三	一九・二五
二一―二五	一八〇	八・六〇	五一―六〇	六九	三・二九
二六―三〇	五〇〇	二三・八八	六〇超過	三九	一・八六
三一―三五	五一七	二四・六九			

二、支出關係

イ、被服費 女店員の一箇月平均被服費は五圓二十九錢であつて、その平均給料に對する割合は殆んど同一で約一割八分に當つて居り、最も多數なるは一圓以上五圓以下の者で一千九百五十六人の内六割五分がそれである。

被服費

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	一、九五六	一〇〇・〇〇%	一〇圓以下	三二三	一六・五二%
一圓以下	三一	一・五八	一五"	九四	四・八一
三"	三九八	二〇・三五	二〇"	一九	〇・九七
五"	八六四	四四・一七	二五"	一	〇・〇五
七"	二二二	一一・三五	三〇"	二	〇・一〇
			三〇超過	二	〇・一〇

ロ、食費及び住居費 女店員の多くが父兄の許に生活する若い人達であつて、その

就職の目的が多く家計補助にあることは既に述べたところであるが、支出に關する事項として食費及び住居費につき明瞭なる記入をなした者は二千四百二人の内七百四十三人の少數者に過ぎない。之等の未記入者の多くはその収入から總計へ繰入れる金額の中に、食費及び住居費をも包含させてあるもので、食費及び住居費としての金額が分明でないものと見ることが出来る。従つて特に食費及び住居費としての支出のない者といひ得るのである。

今記入した七百四十三人に就いてその金額別を見ると、十圓以下の者が四割八分、十五圓以下の者が三割六分で兩者を併せると八割四分が十五圓以下の者となるが、斯の如く食費及び住居費の小額なのは、前述の如く父兄とその生計を共にする結果に外ならない。

食費及び住居費	
金額	人員
七四三	一〇〇・〇〇%
三五圓	三五圓
人員	割合
七	〇・九四
金額	人員
三五圓	七
割合	割合
〇・九四	〇・九四
人員	人員
七	七
割合	割合
〇・九四	〇・九四

一〇圓以下	三五七	四八・〇五	四〇"	五	〇・六七
一五"	二六五	三五・六七	五〇"	六	〇・八一
二〇"	六〇	八・〇八	六〇"	一	〇・一三
二五"	二六	三・五〇	六〇超過	三	〇・四〇
三〇"	一三	一・七五			

ハ、家計補助 家計への補助即ち自己の働きによつて家庭經濟の一部を負擔することとは、就職の最も主要なる目的であり、同時に自己の生活を維持することでもある。一千七百五人の女店員に就いてこの家庭補助額を見ると、全然家計の補助をしていないものは僅かに百七十七人で、他の一千五百餘人はその金額の多少に拘らず家計の補助をしてゐるものである。

その金額は二十圓以下の者が八割四分といふ多數であるが、これは女店員の平均給料が二十八圓九十一錢であり、給料三十五圓以下の者が女店員の八割八分を占めてゐる事實から肯かれるところである。

家計補助額

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總	一、五二八	一〇〇・〇〇%	三五圓以下	二七	一・七七%
五圓以下	一八三	一一・九八	四〇"	六	〇・三九
一〇"	四二五	二七・八一	五〇"	七	〇・四六
一五"	三六五	二三・八九	六〇"	二	〇・一三
二〇"	三〇三	一九・八三	六〇超過	二	〇・一三
二五"	一四七	九・六二	外に支出なき者	一七七	—
三〇"	六一	三・九九			

ニ、交通費、修善費、娯樂費 交通費の支出なき者は、二千百十三人の中僅かに九十一人であつて、その支出ある者では三圓以上五圓までの者が約半數で、これに次ぐのが一圓以上三圓までの者である。

交 通 費

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	二、〇二二	一〇〇・〇〇%	七圓以下	二三五	一一・六二%
一圓以下	六九	三・四一	一〇"	五三	二・六二
三 "	六四四	三一・八五	一〇超過	八	〇・四〇
五 "	一、〇一三	五〇・一〇	外に支出なき	九一	—

修養費の一人平均支出額は二圓四錢で、あつて平均給料に對する割合は七分に當る。

娯樂費の一人平均は二圓六十六錢で、その娯樂の主なるものは音樂を始めとして映画、旅行、觀劇等で現代女性の趣味の趨向を覗ふことが出来る。蓋し音樂、映畫等は大衆娯樂として現代を表徴し、婦人の嗜好に最も適する爲めであらう。

金額	人員	割合	金額	人員	割合
修 養 費			娛 樂 費		
總數	一、六五四	一〇〇・〇〇	總數	一、八〇九	一〇〇・〇〇

一圓以下	六五八	三九・七八	一圓以下	五一三	二八・三六
三 "	七一〇	四二・九三	三 "	九九二	五四・八四
五 "	二二六	一三・六六	五 "	二四二	一三・八八
七 "	四一	二・四八	七 "	三三	一・八二
一〇 "	一二	〇・七三	一〇 "	二三	一・二七
一五 "	七	〇・四二	一五 "	五	〇・二八
一五超過	—	—	一五超過	一	〇・〇五
外に支出なき者	一二五	—	外に支出する者	五三	—

ホ、貯蓄及び其の他の雑費 女店員の一月の一人平均貯金額は四圓九十二錢でその平均給料に對して一割七分に當つてゐるが、之を平均被服費と比較して見ると三十七錢少く、又修養費及び娛樂費に比べてみると前者に對しては、二圓八十錢、後者に對しては二圓二十六錢が多いことになる。

これを一千九百八十六人の女店員に就いて觀れば、貯蓄をしない者が二百十人で、

貯蓄をする者が一千七百七十六人であるが、金額に於ては一圓以上三圓以下の者が三割六分、三圓以上五圓以下が二割一分、一圓以下が一割七分といふ割合で五圓以下の者が貯蓄人員の七割四分を占めてゐる。

貯蓄金額		金額	人員	割合	
總數	一、七七六	一〇〇・〇〇	一五以下	九七	五・四六
一圓以下	二九三	一六・五〇	二〇 "	四二	二・三六
三 "	六四八	三六・四九	三〇 "	一九	一・〇七
五 "	三六九	二〇・七八	三〇超過	二	〇・一一
七 "	一〇三	五・八〇	外に貯蓄のなき	二一	—
一〇 "	二〇三	一一・四三			

其の他の諸雜費貯金と同様五圓までの支出が大多數であるが、その内一圓以上三圓以下の者が最も多く一千六百三十七人中の四割七分までがそれである。

デパート女店員になるには

八八

其の他の雑費

金額	人員	割合	金額	人員	割合
總數	一、六三七	一〇〇・〇〇			
一圓以下	二二八	一三・九三	一〇圓以下	八二	五・〇一
三〃	七七六	四七・四〇	二五〃	三八	二・三二
五〃	三九九	二四・三七	二五超過	二	〇・一三
七〃	一一二	六・八四	外に支出なき	五四	—

第三節 食堂給仕の實相

三越、白木屋、松坂屋、松屋、高島屋、美松、ほていや等の本支店に働く給仕は多く子供であつて、職業婦人とは寸時見られないけれど、此れから職業婦人に一本立ちしようとする幼稚園児である。故にこれ等食堂に働く少女達の年齢、學校、勤務方法及び初任給、給料、昇給などの詳細を示して、こちらから、女店員にならうとする人

々の一助としよう。

一、年齢 食堂給仕の年齢は大體想像される所で、十五歳以上二十歳以下が一番多く、總數七百六十人のうち五百九十九人を占めてゐる。けれども又三十歳以上のものも尙ほ二十九人からある。この様に年を取つたものゝ多くは監督であらうと思はれる。

食堂給仕の年齢

總數	七六〇	三五歳以下	八
一五歳以下	七三	四〇〃	二
二〇〃	五九九	四五〃	一
二五〃	五九	五〇〃	一
三〇〃	一五	五〇超	二

二、戸主又は夫の職業 食堂給仕の多くは、あまり家庭が裕福なものはないであらう。あゝして食堂の中でママママしく立ち働いてゐる。彼女等の姿を見てみると、何

となくその家庭の上に思ひを馳せざるを得ない。
彼女等の家庭の状態を十分知るよすがも無いけれど、それを窺ふ一端とも思つて左
に戸主又は夫の職業を調べて見やう。

食堂給仕の戸主又は夫の職業

總數 七〇六

製紙印刷業 二五

工業 一八九

機械器具製造業 二五

土木建築 四七

商業 一七三

製材建具職 三七

商業的職業 一四〇

接客業 三三

公務自由業 一五八

書記的職業 八四

官公吏、雇傭人 四四

其他 三〇

交通業 二五

農業 八

水産業 三

其の他の有業者 一〇

無業 一四〇

このやうに産業別に見ると工業が一番多い。その中でも土木建築業に属するもの、
例へば大工職、請負業の如きものが多い。

けれども職業別に全體を見渡すならば、やはり商業的職業のもの、即ち日用品販賣
店の如きものが最も多く、食堂給仕總數七百六人中、百四十人を占めてゐるのであ

る。その次が書記的職業、これは一般の會社、銀行などの勤め人で八十七人を占め、次が土木建築業者、官吏又は雇傭の順位となつてゐる。

三、教育程度 次に食堂給仕の教育程度を一覽して見やう。

食堂給仕の教育程度

總數	七五九
高等及び實業女學校	二三
全然學歷なきもの	二
高等女學校	五〇
尋常小學校	二四〇
特殊技藝學校	一一
高等小學校	四三〇
大學、專門學校	一
補習及び夜學女學校	二

これによると高等小學校程度が、群を抜いてゐる。總數七百五十九人の中、四百三十人を占めてゐる。その次が尋常小學校の二百四十人である。女學校程度のもものは、七十五人餘り大學專門學校のもの尙一人ある。

四、就職の目的 次に就職の目的を見るに、その大半は家計補助であるといふ點は女店員と異ならない。

食堂給仕の就職目的

總數	六八六
職業婦人を希望して	二
家計補助のため	五七一
學費を得るため	二
自活のため	三四
修養のため	九
嫁入仕度	一七

趣味のため 四
 貯蓄するため 六
 實社會經驗のため 三
 子女教育のため 三
 將來の準備のため 九
 弟妹教育のため 一
 其他 |
 事務見習のため 二
 特に理由なきもの 一四
 五、就職の方法 更に就職の方法を見よう。どんな手蔓^{てづな}でデパートの食堂給仕として就職するのだらうか。

食堂給仕の就職方法 六五七
 總數

職業紹介所 二〇〇
 親戚知人の紹介 二九五
 學校の紹介 一二九
 募集廣告 三三二
 父母兄弟の紹介 一

六、初任給 次に食堂給仕の初任給を調べてみよう。
 食堂給仕の初任給

總數 七二四
 二〇圓以下 一一〇
 二五 " 五五四
 三〇 " 三八
 三五 " 一二

これによると二十圓から二十五圓位までが一番多いのである。

七、給料及び収入總額 食堂給仕の現在給料を見るに、最も多いところは、やはり二十圓から二十五圓までの處である。總數七百十六人のうち、三百七十七人を占めてゐる。その次が三十圓以下の二百二人である。

これを一人當り平均に見ると、二十三圓九十一錢となる。

食堂給仕の給料

總數	七〇三
一五圓以下	二九
二〇〃	六二
二五〃	三七七
三〇〃	二〇二
三五〃	一八
四〇〃	一一
四五〃	二

五〇〃 二

更に手當、賞與しょうよを見よう。

食堂給仕の手當

總數	二七五
一圓以下	七三
三〃	一二三
五〃	三九
七〃	二三
一〇〃	一一
一五〃	七

食堂給仕の賞與

總數	四八八
一圓以下	七一

三	〃	一九六
五	〃	一二〇
七	〃	七三
一〇	〃	二五
一五	〃	三

給料、手当、賞與、及びその他の収入を加へたる収入總額を見るとき。

食堂給仕の収入額

總數	七〇六
二〇圓以下	四〇
二五	一七一
三〇	三一七
三五	一一三
四〇	三六

四五	〃	二二
五〇	〃	八

八、支出

一、被服費 百貨店の食堂給仕は一定の制服せいふくがあるからして、勤務用の被服費は要らない。

二、食費及び住居費 おほかた大方は自宅から通ふ者であるからして、別に食費又は、住居費として拂ふものはなし。

食堂給仕の食費及び住居費

總數	二〇五
一〇圓以下	一一七
一五	五七
二〇	二九
二五	二

食費及び住居費を拂はない者は二百七十二人である。

三、家計補助 家計の補助を幾分にでもしたいといふ願ひから勤めに出る者が多いのであるから、家計補助をしないと云ふものは僅かに二百五十人であるに反して、家計補助をなすものは約二倍もある。

食堂給仕の家計補助

總數	四四〇
五圓以下	六九
一〇圓以下	一三九
一五 "	一二四
二〇 "	一〇八

四、交通費 交通費を支拂はないものは百五人であるに對して、支拂ふものは六百五十二人もある。すなはち大體に於いて交通費を支拂ふものと見るべきである。その額は三圓以上五圓以下が一番多くてその數は三百五十三人である。

五、修養費 更に修養費として擧げられたものを見るに、三圓以下が多いのであるが一人平均一圓六十四錢となる。給料の七分にあたる。

六、娯樂費 娯樂費を見積れるものは五百三十五人に餘る。これは娯樂費を持たないもの二百七十七人に比較すると可成り多い。大體に於いて娯樂費を出すものと思はれる。その額はやはり一圓から三圓までが一番多い。一人平均では一圓八十六錢に當り給料平均に對して八分近くに當る。

七、貯蓄 最後に貯蓄を一覽して見やう。

食堂給仕の貯蓄額

總數	四八六
一圓以下	一八
三圓 "	三一六
五 "	八四
七 "	六〇

一〇〃

八

第四節 エレベーターガールの實相

空へ空へと延び行く近代建築虚榮の殿堂デパートは、スピード時代に適したエレベーターの設置となつた。各デパートは特に御客の應待に、より良き好感を與へるために競つて婦人採用となり、こゝにエレベーターガールの出現となつたわけである。

エレベーターガールを見るにつけて、まづ氣になることは、かう云ふ職業は極めて危険であらうといふことだ。けれどもこれは決して危険なものではなく、またそれ程技術を要しないものであるらしい。たゞ問題は急激な垂直昇降が身體に影響するであらうといふことである。けれども實際に於てはそう大したことはないらしい。以下さういふ問題を念頭に置きつゝ順次に年齢、教育程度、健康状態、勤続年限、給料、休日利用法、仕事に對する希望、等を調べて、それについて感想を述べて見やう。

一、年齢 エレベーターガールは幾歳位だらうか、と思つて調べて見るに、やはり

二十歳前、然も殆んど全部が未婚者である。總數百六人の内、一五歳以下の者は僅かに一人であるが、二十歳以下の者九十二人、二十五歳以下のものが二十であつて、それ以上のものはない。

二、教育程度 エレベーターガールといつても、それ程特別の技術を要するものではないからして、他の事務員や店員と大體に於て似てゐる。従つて教育程度を見ても、特別に變つたところはない。やはり高等小學校程度の者が一番多くて、全體の約半分を占めてゐる。また更にその半分位が女學校といふことになつてゐる。

エレベーターガールの教育程度

總數	一〇六
尋常小學校	一六
高等小學校	五〇
商業及び實科女學校	一〇
高等女學校	二二

特殊技藝學校

八

三、健康状態 次に注意される仕事の身心しんしんに及ぼす影響を見よう。

エレベーターガールの健康状態

總數	八六
影響なし	四八
精神の疲労	三
身體の疲労	二〇
脚氣	二
目の疲労	二
其他	一一

これによると大體に於いて影響えいぎやうはないといふのである。總數の中、半分以上を占めてゐる。しかし何分にも人混みひとごみの中で、小さい室に閉ぢこもつたまゝ、上下に急激きうげきな昇降するのであるからして、決して他の業務に比して樂とは云へない。身心に及ぼす影

響も相當にあることであらう。このへんのことについてはこの仕事に對する希望や感想の項を参照されればよく分る。

四、勤続年限

この業務は最近の發達であるからして、勤続年限はそう長くはない

筈であるが、一年未滿がやはり一番多い。その次が二年未滿である。

そこでエレベーターガールの勤続年限きんぞくねんげんについて一覽してみると、總數百六の中、一年未滿ひきまんの者四十五人、二年未滿の者四十一人、三年未滿の者十四人、五年未滿の者六人となつてゐる。これによつて見ると、五年近くもエレベーターガールとして勤務してゐる者があるといふことは一寸注意すべきであらう。

エレベーターガールの直接ちやくせつの聲々を聞くと、彼女等は出來得るならば、普通の事務員や、店員になりたい。早くなりたいと願つてゐる。

五、給料及び収入總額

彼女等の給料は、まづ三十圓未滿、大體に二十圓から三十圓までである。一人平均では二十六圓六十六錢となつてゐる。

エレベーターガールの給料

總數	一〇四
一五圓以下	三
二〇 "	六
二五 "	三三
三〇 "	四八
三五 "	五
四〇 "	九

この一人平均を見ると、一般店員平均額二十八圓九十一錢より少くなつてゐる。更に給料以外の諸収入を加へたものを見ると、

エレベーターガールの収入總額	八七
總數	一
二〇圓以下	九
二五 "	九

三〇 "	一八
三五 "	三九
四〇 "	一二
四五 "	七
五〇 "	一

これによると三十圓未満が一番多い。

六 休日利用法 他の業務に於ては、あまり休日利用法は見なかつたのであるから、ここではエレベーターガールが家庭へ歸つてから、休日には何をして暮らすのであらうかを調べてみた。

次の表によつて見ると、まづ一番多いのは家事手傳ひである。純然たる家庭の人となるのである。その次は映畫見物である。尖端嬢の多くは、やはりシネマ・ファンだ。

エレベーターガールの休日利用法

總數	一四〇
家事手傳	四五
映畫見物	二〇
讀書	一九
裁縫	一八
洗濯	一二
散步	一二
諸稽古	二
音樂	二
利用	一
訪問	一
觀劇	一
生花	一

娛樂	一
其他	五

七、仕事に對する希望 次にエレベーターガールの、仕事に對して抱く希望を述べてみやう。

エレベーターガールの仕事に對する希望

總數	三一
世人又は御客の理解	八
成績を上げること	五
客に好感を	五
愉快に	四
忠實に	三
地位の昇進	三
設備の改善	一

勤務時間の厳守

人格を認められたい

これによると、一番多いのが世人又は御客の理解を求めること、その次は仕事の上で忠實に、サービスを良くしたいといふ念願である。

エレベーターガールの仕事に對する希望 例

- 1 当店側の御客本位（笑顔で向へて感謝で送る）を常に守りお客心理に添ふやうに心掛けてゐます。（十七歳）
- 2 自分の係を無事に果せるやうに。（十八歳）
- 3 事故の起らぬ様希望致します。（十九歳）
- 4 毎日一時間毎に、無事にと祈りつゝ一日を送ります。（二十歳）
- 5 自身の人格の向上。接客方法の熟練。（十九歳）
- 6 私達の職業を世の中の人が理解を持つてほしいと思ひます。（十九歳）
- 7 世間の人から誤解されやすい私達の職業を眞實な態度で凡ての人に接して行く

ならやがては理解される事と存じます。（十七歳）

8 賣場。（十八歳）

9 他の店員と異り、交代に時間有り讀書に便あり。（十八歳）

10 目的のない仕事に希望は御座いません。（十八歳）

八、仕事に對する感想 仕事に對する感想を分けて、一番たのしく思ふこと、一番嫌ひに思ふこと、の二つとする。まづその前者について述べて見よう。

一番楽しく思ふこと

總數	四九
世人又は御客の理解	一五
間違ひなく完成	八
身體健康	五
好きな仕事	四
休息の時	四

- 休日又は在宅 四
- 帰宅のとき 三
- 多忙のとき 二
- 同僚間仲良く 二
- 機械良好 一
- 勤め先の發展 一

これによつて見ると、やはり世人又は御客の理解ある態度を一番たのしく思ふやうである。

一番楽しく思ふこと 例

- 1 物のわかつた御客にあつた時。(十九歳)
- 2 御客様にほめられたとき。(十九歳)
- 3 御客様を氣持よく送迎した時。(二十一歳)
- 4 御客のあるとき。(二十歳)

- 5 自分の努力がむくいられて顧客に御満足をあたへられた時。(十七歳)
 - 6 お客様にお店の事業をほめられる時。(十九歳)
 - 7 利用者がお互に譲り合つて参りたる時。(二十歳)
 - 8 忙しい時お客様にやさしいお言葉をいたゞく事です。(十九歳)
 - 9 事故もなく自然心にわだかまりのない時。(二十一歳)
- 次に、仕事に對する感想の第二として、一番嫌ふことを掲げて自よう。

一番嫌に思ふこと

- 總數 五六
- 世人又は御客の無理解 二九
- 機械の故障 八
- 勤務時間の延長 五
- 叱られた時 四
- 病氣又は身體故障 三

- 豫定通り抄らぬこと 二
- 仕事がないこと 二
- 上役の無理解 二
- 遅刻 一

これによつて見ても、一番嫌に思ふことはやはり世人又は御客の理解無いことである。次にまた彼女等の聲々を聞いて見よう。

一番嫌に思ふこと (例)

- 1 事故の時、侮辱、不良。(十九歳)
- 2 聲の出ない時。(二十歳)
- 3 御客のない時。(二十歳)
- 4 頭が昂奮してまごつき出す時。(十八歳)
- 5 お客様に事故がある時。(十六歳)
- 6 一般の人からエレベーター係と軽視されること。(二十歳)

- 7 お客様より無理なるお小言を云はれたとき。(二十歳)
- 8 婦人(多く女學生)に軽蔑した目でみられること。(二十歳)
- 9 お客様があまり利己主義なことです。(十九歳)
- 10 氣持のよくない時、お客様に馬鹿にされた時。(十七歳)
- 11 お客様から、いやな投書のくる事。(十八歳)
- 12 エレベーターの中でいたづらされるのが一番いやです。(十八歳)
- 13 へんなお客様が参つたとき。(十八歳)
- 14 氣分のわるいとき。(二十一歳)

第七章 家庭生活と職業との調和

最近婦人の社會的進出は誠に目覺しい勢で、數日前の新聞によつても、本年度の各東京市内デパート従業員採用は大部分婦人にする方針である様な記事があつた。これ

は一面婦人の社會的地位が認められて來たことを立證するもので日本女性のためには慶賀に堪へない。

唯婦人の職業に携はるものゝ考へねばならぬことは婦人と家庭との關係であつて、從來動もすれば婦人が職業に就くと家庭を顧みないといふ様な傾があつた事は誠に遺憾とする所である。

惟ふに婦人の天職は何と言つても家庭の仕事と、次の時代の國民を養育することであつて、之は洋の東西、時の古今を問はず共通して渝らない眞理であらうと思ふ。唯現在の生活様式は日々々々簡易化され、延いては婦人の生活の上にも著しく時間的の餘裕が生じて來た爲め、從來消費者の立場のみにあつた婦人が、今日に於ては一面生産者としても社會に貢獻することが出来るやうになつた。

言ひ換へると今迄社會の富を費ひ減らしてばかり居た婦人がこれを増す仕事に参加することになつたのである。

然し家庭から街頭に出て働く婦人も始終家庭を忘れずに、仕事に出掛ける時にも、

先づ家事のことを整理して、若し學校へ通ふ小供を持つてゐる人は、小供と一緒に家を出る。そして一日の仕事が終つたならば、早く一直線に自分の家庭に歸るといふことにしたい。斯くして始めて家庭と職業との關係は圓滿調和を保つて幸福に満ち溢れた生活が生れるであらう。

次に婦人が大切な天職を果すと同時に、更に一步進めて社會的に活動する上は、何事かその足跡を地上に残す事を心掛ける必要がある。同じ店で仕事をするにしても、唯機械的に働くといふことではなく、自分は一店員であり、事務員であつても社會の一員として經濟的に貢獻してゐるである。行く行くは適當な機會があつたならば、一層自分の才幹を發揮し、より大きな社會的貢獻をしなければならぬといふ覺悟が必要である。唯漫然と其の日其の日を送つてゐるばかりでは折角これ迄進んだ婦人の地位も自然退歩するの外ないと思ふ。

私は現代の婦人がはつきりと自己の社會的責務を自覺し、自己の生活を樂しみ、一個の見識を以つて、事にあたつたら、從來の様な職業婦人に對する蔑まれる卑まれた

る觀念を完全に消滅させることが出來ると確信かくしんする。そしてこれを實現させることは、これより職業婦人に成らんとする婦人の御心掛こころがけ一つに懸つてゐる。常に仕事の餘暇には學び、子供を寝かしつけた後では何事か自分の向上を圖ることを努め、職場事務室に於ても各種の機關を通じて一身の修養を怠らず、一日く完成に近づくことを心掛けなければならぬ。

デパート女店員になるには (終)

昭和十年六月十日印刷
昭和十年六月十五日發行

定價金 五十錢

送料 四錢

著作
所 有
載 轉 製 復 禁

著作兼 發行人 淺井忠吉
印刷人 東京市小石川區柳町十一番地 行木三郎
印刷所 東京市小石川區柳町十一番地 進行舎印刷所

東京市豊島區巢鴨二ノ三五

發行所

良國民社

電話大塚〇四七四番
振替東京八〇七七一番

東洋鐵道學會編纂

鐵道傭人問題解答集

採用試験
毎年千五百名を募集する國有鐵道採用試験問題とその模範回答集である受験者無二の参考書
東洋鐵道學會編纂

定價 四六版上製
送料 壹圓六錢

鐵道入學試驗問題集

全國各鐵道局教育所の入學試験と雇員採用試験の模範回答を集む、鐵道員志願者の必携参考書
大日本國防協會編纂

定價 四六版上製
送料 七圓六錢

海軍人志願兵試驗問題集

少年航空兵、志願兵、其他通信、飛行、工科、幼年、士官、機關、經理、兵學校の全校に亘る努力の編輯
日本警務學會編纂

定價 四六版上製
送料 壹圓六錢

全巡查問題解答全書

内地各府縣及植民地、海外派遣等あらゆる巡查採用試験問題と模範回答集、合格本意の好参考書
良國民社編輯部編纂

定價 四六版上製
送料 壹圓十錢

全小學教員問題解答集

教員檢定並に師範學校入學試験問題に更に受験案内を附した教員志願者絶好の参考書である。

定價 四六版上製
送料 九圓六錢

東洋遞信學會編纂

遞信普通科入學試験問題解答集

特に心理檢査の問題に對しては試験委員自ら詳細なる解答を附し懇切を極む
東洋遞信學會編纂

定價 四六版上製
送料 壹圓六錢

遞信高等科入學試験問題集

遞信從業員の中堅を養成する講習所の入學試験問題と遞信官吏練習所の入學試験問題を採録す
東京産婆看護婦通信學校編纂

定價 四六版上製
送料 四圓四錢

全產婆試驗問題集

春秋二季に施行する產婆の試験問題回答其他受験手續及受験心得を詳しく説明してある受験寶典
東京産婆看護婦通信學校編纂

定價 壹圓
送料 十二錢

全看護婦試驗問題集

產婆と共に施行する看護婦試験問題と模範回答を集め受験手續受験心得等を詳述す受験者の必携書
東京産婆看護婦通信學校編纂

定價 壹圓
送料 十二錢

產婆看護用語大辭典

產婆及看護婦として知らねばならぬ専門用語を集む、志願者は勿論有資格者のためにも良い参考書

定價 上製 九圓
送料 六錢

終

